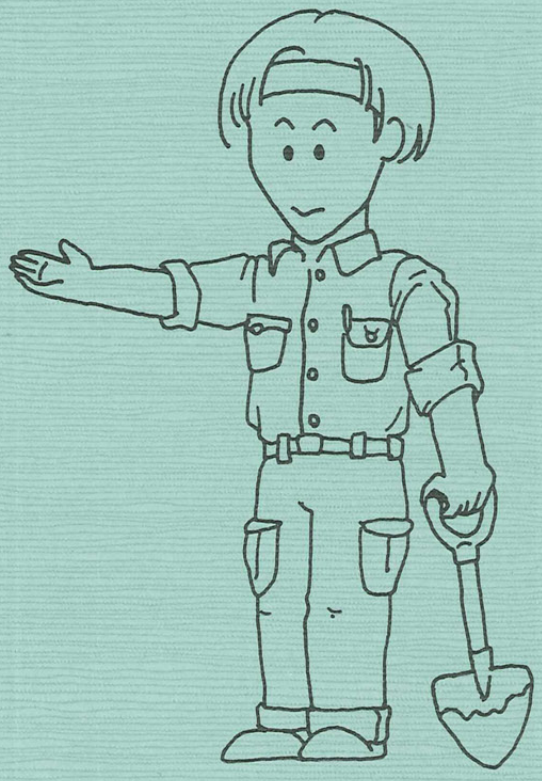
倉敷埋蔵文化財センター年報１

―1993年度―



1994年12月

倉敷埋蔵文化財センター

序

平成５年４月に本市の長年の懸案でありました埋蔵文化財センターが開館いたしました。当センターは，倉敷市新市発足20周年記念事業の一環として，生涯学習施設ライフパーク倉敷内に設立されたもので，市内の埋蔵文化財保護の拠点施設として，市民からも大きな期待が寄せられています。

今日における埋蔵文化財センターの果たすべき役割は，単に調査・研究にとどまらず，地域における歴史の基礎資料の集積・発信拠点としての機能をも併せ持った施設が求められています。このことは，各地で行われる発掘調査の現地説明会や遺跡見学会・講座等に対する市民の関心の高さにもあらわれております。こうした埋蔵文化財センターにおける普及事業は，いまや調査・研究の片手間ではなく，センターの総力を挙げて取り組まなければならない重要な課題のひとつとなっております。

このたび刊行いたしました『倉敷埋蔵文化財センター年報１』は平成５年度に実施いたしました埋蔵文化財調査の成果を少しでも早く公開するとともに，当センターが行いました普及活動の記録も合わせて報告するものです。

本書が今後の埋蔵文化財保護行政の一助として，また生涯学習活動におけるいささかの参考となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、調査をはじめ講座等センターの運営にあたり，ご指導ご協力を賜りました関係の皆様に厚くお礼申し上げますとともに，今後とも市民各位のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成６年12月

倉敷埋蔵文化財センター
館　長　三　宅　正　廣

例　　言

1．本書は，倉敷埋蔵文化財センターが1993年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。

2．発掘調査は，倉敷市教育委員会倉敷埋蔵文化財センター職員福本明・鍵谷守秀・小野雅明・中野倫太郎・片岡弘至が担当した。

3．本書の執筆は各担当者が分担して行い，それぞれ文末に文責者を記した。全体編集は，片岡が行った。

4．出土遺物の整理は倉敷埋蔵文化財センターで行い，整理にあたっては，明石香・内田智美・木曽敏江・多賀仁美・藤田朱美・宮地かをりの協力を得た。

5．本書で使用した高度は海抜高であり，方位は磁北である。

6．調査地位置図で使用した地形図は，倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり，その他のものは，倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものである。

7．本書に関係する実測図・写真・遺物等は，すべて倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

目　　次

序 文

例 言

Ⅰ　1993年度事業の概要 …… 1

Ⅱ　普及事業

普及事業の概要 …… 3

Ⅲ　調査事業

日畑橋遺跡確認調査報告 …… 13

日畑廃寺確認調査報告 …… 14

酒津－水江遺跡確認調査報告 …… 15

塩生遺跡発掘調査報告 …… 18

Ⅳ　資料紹介

経寺山2号墳出土の須恵器 …… 21

Ⅴ　寄贈図書一覧 …… 27

付 編

倉敷埋蔵文化財センター情報誌「ほるほる」 …… 35

I　1993年度事業の概要

倉敷市における埋蔵文化財に係る業務は，従前より教育委員会文化課文化財係で取り扱われてきたが，1993年４月の倉敷埋蔵文化財センターの開館に伴い，一連の業務は一括して当センターにて行うこととなった。これを受け，センターの職員の配置は，館長（兼務），館長補佐，学芸員６名（うち兼務２名），嘱託１名，臨時職員３名の計12名（うち兼務３名）という体制となった。埋蔵文化財センターの建物は，鉄筋コンクリート平屋建て，延べ床面積約1,295㎡であり，展示室，収蔵庫，整理室のほか木器保存処理室，鉄器保存処理室等も備えている。

倉敷埋蔵文化財センターは，市内における埋蔵文化財の調査・研究，出土遺物の整理，収蔵保管および文化財保護の普及を目的に設立されているが，とりわけ当センターは，生涯学習施設であるライフパーク倉敷の中の一施設として位置づけられており，調査・研究とともに生涯学習の中での埋蔵文化財の果たす役割が期待されている。

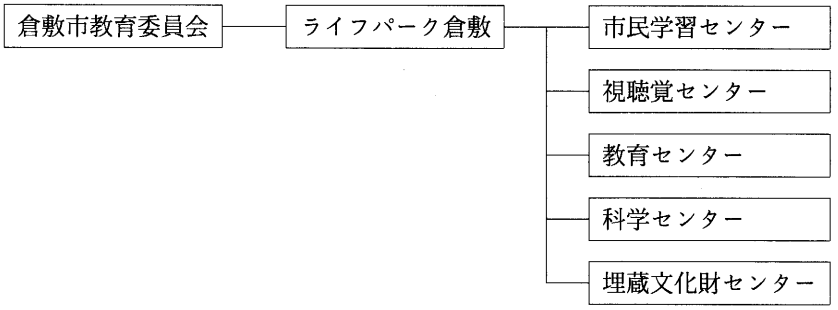
1993年度の調査業務は，発掘調査１件，確認調査３件，立会調査27件を実施した。調査はいずれも小規模なもので，確認調査が主であった。各調査の概要については，本文を参照されたい。倉敷市においては，ここ数年来周知の遺跡内での大規模な開発はかなり減少している。しかしながら開発事前協議を必要とする1,000㎡以上の開発は，主に分譲住宅の開発を中心に平野部で急増しており，1993年度は114件に及び，前年度比58％の増加となっている。幸い倉敷市では，平野部の多くが近世以降の干拓地であり，これらのほとんどが遺跡には直接影響を及ぼすものではなかったが，今後こうした開発が丘陵部に及ぶ場合には，十分な注意が必要となろう。

そのほか昨年度より実施している遺跡分布調査は２年目に入り，玉島地区を中心に，一部児島地区の調査を行った。分布調査は，近年の生活様式の変化や松喰い虫の影響等により，山林が荒れているところが多く，山中での調査はなかなかはかどっていないのが現状である。しかしながら玉島陶地区の調査では，新たな須恵器窯跡が確認されるなど成果が上がっている。

普及事業の概要については，本書第Ⅱ章に詳述されているので，参照していただきたい。埋蔵文化財センターにおける普及活動については，開館初年度であり，その内容について模索した年であったが，センターの展示室を中心に，埋蔵文化財関係の講座や特別展さらにはサヌカイトを使ったコンサート等，来館者の反響もよく，一定の成果を納めることができた。

埋蔵文化財センターを含めて５つの施設からなるライフパーク倉敷は，生涯学習の複合施設として多くの市民の利用があり，開館年度である1993年度は，施設全体で約40万人の利用者があった。このうち埋蔵文化財センターでは，開館日数272日に対して，入館者28,797人の利用があった。月別の利用者数の内訳は次表のとおりである。

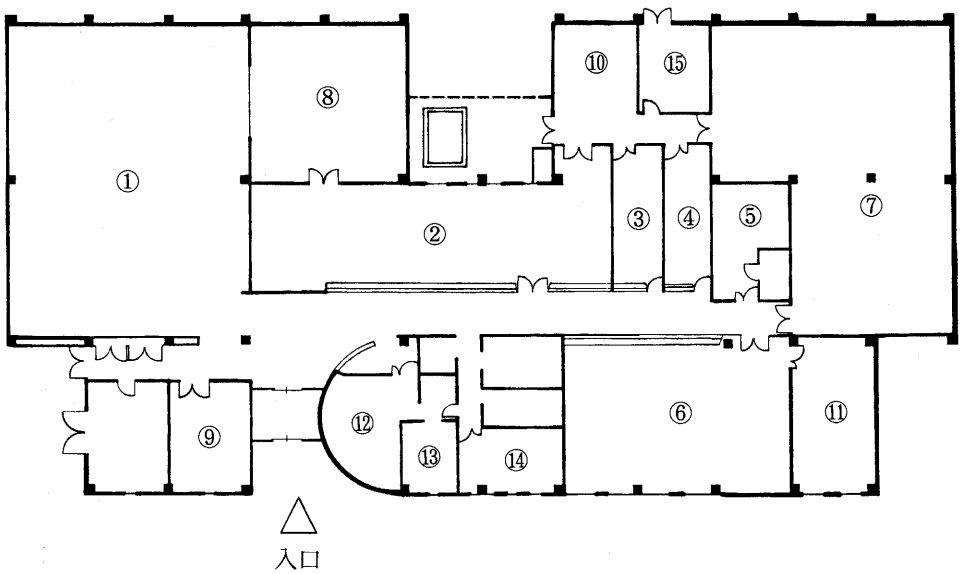
倉敷埋蔵文化財センター機構図



1993年度利用者数集計表

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
開館日数		5	23	25	27	26	24	26	23	22	22	23	26	272（日）
入館者数	一般	567	2,794	1,727	2,288	2,437	1,983	1,772	1,461	629	635	734	1,894	18,921（人）
	児童生徒	377	1,715	705	824	1,499	639	1,289	994	331	309	192	1,002	9,876（人）
	合計	944	4,509	2,432	3,112	3,936	2,622	3,061	2,455	960	944	926	2,896	28,797（人）

建物平面図



◎延床面積　1，295．53 ㎡

◎主要各室面積一覧

①展示室 …… 251.90 ㎡	⑤写場 …… 25.16 ㎡	⑨特別収蔵庫 …… 30.71 ㎡	⑬更衣室 …… 13.16 ㎡
②遺物整理室 …… 137.54 ㎡	⑥記録整理室 …… 117.45 ㎡	⑩仮収蔵庫 …… 41.63 ㎡	⑭会議室 …… 23.66 ㎡
③木器保存処理室 … 25.50 ㎡	⑦第1収蔵庫 …… 211.61 ㎡	⑪研究室 …… 44.55 ㎡	⑮発掘器材庫 …… 21.38 ㎡
④鉄器保存処理室 … 23.59 ㎡	⑧第2収蔵庫 …… 83.03 ㎡	⑫事務室 …… 37.19 ㎡	その他 …… 207.47 ㎡

Ⅱ　普及事業

事業の概要

1．展示

当センターでは，展示室の常設展示と遺物整理室などでの整理作業の過程を公開している。

a．展示室（常設展示）

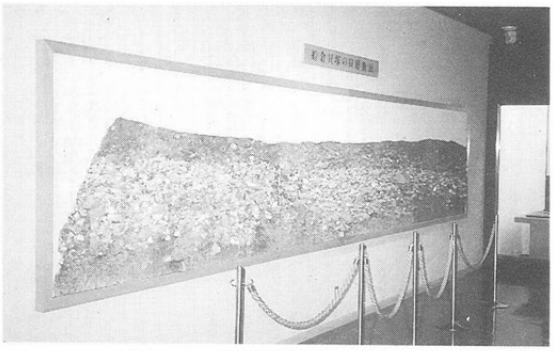
○発掘現場再現ジオラマ

竪穴住居の発掘の様子を再現している。入館してまず第一に，当センターの主たる仕事を視覚的にとらえてもらおうという意図により設置された。また，展示室への導入というニュアンスも込められている。

発掘現場再現ジオラマ

○船倉貝塚貝層断面

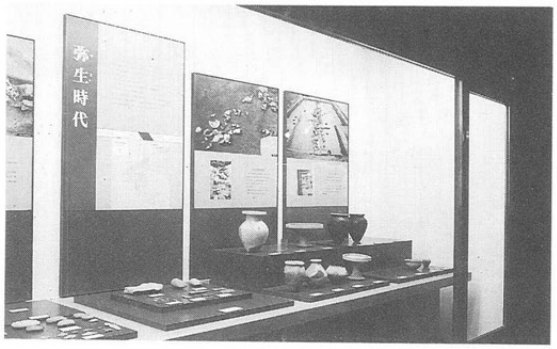
平成３年度に発掘調査された船倉貝塚から剝ぎ取った断面標本である。長さ６ｍ程の長大なもので，廃棄された土器の破片が埋もれている様子も観察できる。



船倉貝塚貝層断面

○時代別展示

壁面の展示ケースには倉敷の埋蔵文化財が通史的に概観できる展示が用意されている。時代は「旧石器」，「縄文」，「弥生」，「古墳」，「古代・中世」の５つに区分してある。これら各時代を，かつて調査が実施された遺跡の資料を中心に紹介している。



時代別展示

○復元竪穴住居

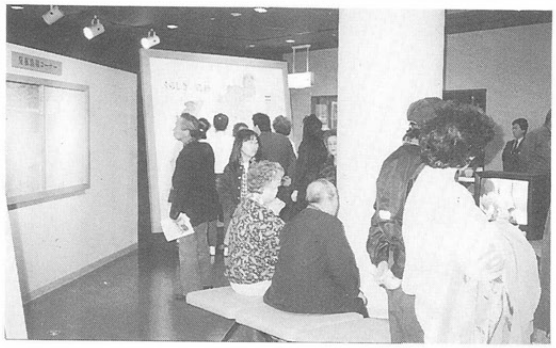
若宮東遺跡で発見された竪穴住居を基に復元されたジオラマ。学芸員が復元した石斧，弓矢土器，紡錘具などの生活用具もあわせて展示してある。生活感の漂う住居となるよう工夫を凝らした。このコーナーは前述の発掘現場再現ジオラマと対になり，調査結果を整理・研究するとどのような成果が得られるかを具体的に示す展示でもある。

復元竪穴住居

○学習コーナー

展示室中央部には，「発掘情報コーナー」，「くらしきの遺跡（遺跡分布図）」，全国の博物館や埋蔵文化財センターの情報を検索できるコンピューター，ＶＴＲモニター，報告書，現地説明会資料，書籍などが用意され，入館者が各自自習するための場を提供している。

アンケート，「おしえて！おしえて！」のコーナー（後述）もこのコーナーで行っており，双方向の情報端末たることも目指している。



学習コーナー

○土器パズルとされる土器

観展者に整理作業を疑似体験してもらうため数ピースに分割された土器を完形に接合するパズルを用意した。各ピースは磁石により正しい位置に固定することができる。簡易化された接合作業が体験できるこのパズルは，小学生達に極めて好評で，アンケートの人気投票でも首位の座を占め続けている。

土器パズル

○可動式ケース

移動式の展示ケースでは，倉敷市日畑で出土した備蓄銭を剝ぎ取り標本と実物により展示している。

○第２収蔵庫

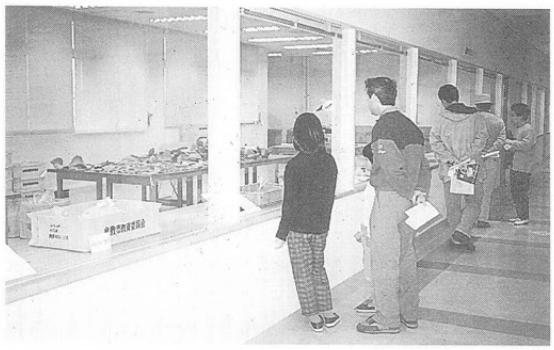
展示室の一角がガラス張りになっており，収蔵庫の内部が見学できるようになっている。現在この場所には，市指定文化財の「板谷コレクション」が収蔵・展示されている。

第２収蔵庫

b．整理作業の展示

遺物整理室などの整理作業の部屋は，見学者が通行可能な廊下に沿って配置されている。ガラス張りになっているため，作業の様子を見学することができる。

また，見学者の理解を助けるように，廊下に沿って解説パネルを設置している。



整理作業の展示

2．講座

a．夏休み親子考古学教室

第１日　　７月28日（水）　13：30より
会場　　ライフパーク倉敷　クラフト室
第２日　　７月29日（木）　13：30より
会場　　由加山・少年自然の家

この講座では，「まいぎり」つくりと火おこし，土器による古代料理作りを行った。

第１日，参加者は自分たちの手で「まいぎり」を作って火を起こした。工具を使う子供たちの手つきは慣れない様子であったが，全員着火に成功した。

第２日は，野外で土器を使った料理を行った。舞いぎりで火をおこし，赤米をまぜたご飯とミソ汁を作った。

子供たちは，はじめての珍しい体験に大騒ぎしながら駆け回っていた。

「まいぎり」による火おこし

土器を使った料理

b．考古学入門講座

第１日　　11月10日（水）　13：30より
会場　　ライフパーク倉敷　クラフト室
「考古学の考え方」
第２日　　11月17日（水）　13：30より
会場　　倉敷埋蔵文化財センター
「遺物の見方」
第３日　　11月24日（水）　13：30より
会場　　吉備路風土記の丘周辺
「遺跡の見方」

考古学の思考法，技術，観察法について，市民の皆さんに学んでもらおうという趣旨で行われた。専門用語をなるべく排し，簡単な言葉で説明しようと努力した。さらにゲーム，実技，見学などをとりいれることも試みた。

しかし，本当に親しみやすくわかりやすい講座になるには，さらに工夫が必要だと感じた。

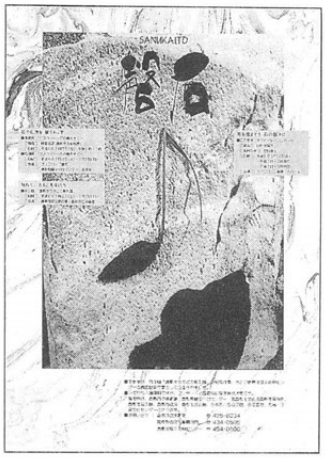
考古学入門講座

考古学入門講座

3．開館記念行事「磬石（サヌカイト）」

a．概要

開館記念行事として，特別企画「磬石（サヌカイト）」を行った。この催しは，倉敷市立美術館，（財）倉敷文化振興財団が行った「第3回くらしき街角の彫刻展」の記念行事でもあり，3機関が共同して開催したものである。彫刻素材の石のひとつとして，また，古代から人々の生活に密接に関わった石としてサヌカイトをとりあげ，展示，講演会，コンサート，石器製作実演などさまざまな角度から紹介しようという企画であった。



「磬石」ポスター

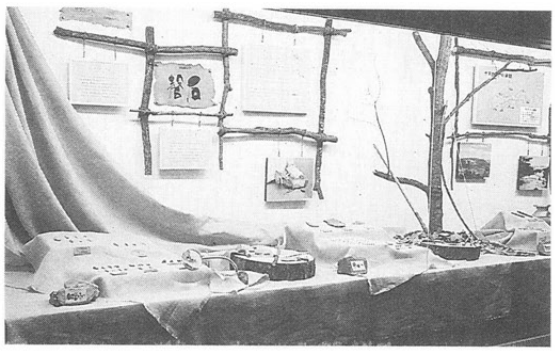
b．特別展

会期　　3月8日～3月27日
会場　　埋蔵文化財センター　展示室
展観者数　2,340名

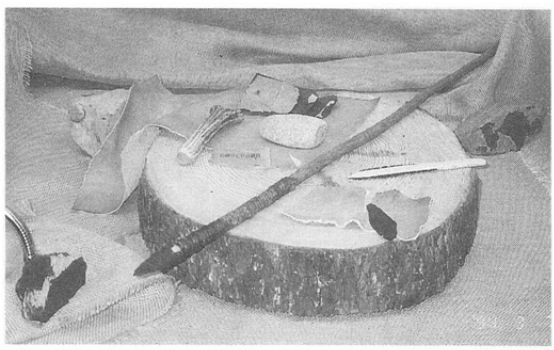
展示室の一角を展示替えし，旧石器時代から弥生時代にかけてのサヌカイトの石器と，宮脇磬子先生作製の石琴に焦点をあてた特別展を行った。

展示は誰が見ても楽しいものになるように，また美しいものになるようにこころがけた。また，展示室には竹田豊靖先生に，桜や野の花を活けていただき，一足早い春の風情によって展示をひきしめていただいた。

宮脇先生のご好意により，自由にさわることができるサヌカイトの石琴が2点展示された。1点は石を1オクターブに配列したもの，もう1点は「春の小川」のメロディーに配列したものである。これらは子供たちにも好評であった。会期中，展示室からは「春の小川」やたどたどしい童謡，歌謡曲の一節など，観展者による演奏がとぎれることなくもれ聞こえた。また，子供たちの楽しげな笑い声さえ聴くことができた。



「磬石」　展示の様子



「磬石」　展示の様子

「磬石」　展示の様子

c．講演会

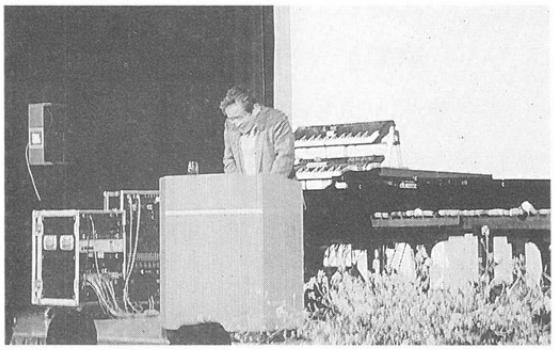
日時　　3月25日　午後6時より

会場　　ライフパーク倉敷　大ホール

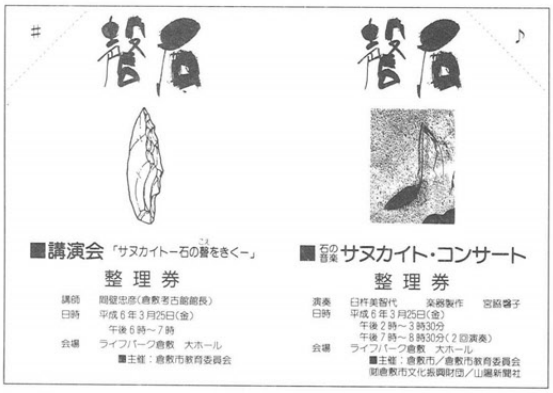
講師　　間壁忠彦

講演会では，倉敷考古館の間壁忠彦館長に考古学者の視点から見たサヌカイトという主題で講演をしていただいた。サヌカイトの別名「磬石」の磬の字の由来となった古代中国の楽器「磬」のことから説き起され，古代人とサヌカイトの関わりや石器のことまで，さまざまな角度からのお話があった。

親しみやすい講演で，歴史好きの人達から好評をいただいた。



「磬石」　講演会



「磬石」　チケット

d．コンサート

日時　1回目　14：00～15：30

　　2回目　19：00～20：30

会場　　ライフパーク倉敷　大ホール

石琴演奏　　臼杵美智代

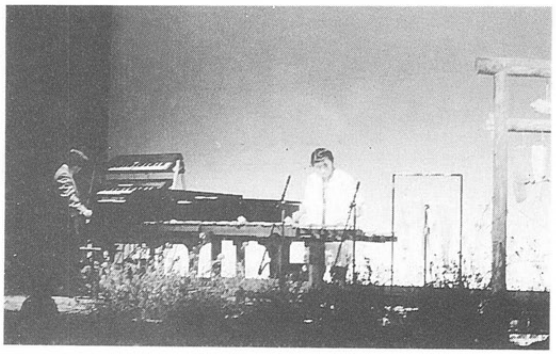
シンセサイザー演奏　　浅川英雄

演出　　小路和孝

コンサートでは，臼杵美智代先生がサヌカイトから美しい音をひき出し，浅川英雄先生がシンセサイザーを操って，「四季の歌メドレー」，オリジナル曲「ストーン」，「こんぴらふねふね」などの曲を演奏して下さった。サヌカイトはとても澄んだ美しい音色で歌う。野の花が飾る舞台からあふれる音が会場に響きわたり，人々を魅了した。

はじめて聴くサヌカイトの音楽への観客の反応は良好だった。メロディーのしっかりした童謡，唱歌などのわかりやすい曲が多かったので，小さな子供たちにも楽しんでもらえたようだ。

講演会とコンサートをあわせると，当初の予想を上回り，入場者は875名にもなった。



「磬石」　コンサート

「磬石」　コンサート

e．サヌカイト製石器の製作実演

日時　　3月25日　午後3時30分より
会場　　埋蔵文化財センター　ホール
講師　　藤原好二（学芸員）

コンサートの昼の部終了後，当センターの学芸員が石器の製作実演を行った。サヌカイトをナイフ形石器に加工する様子をはじめて見る人たちは，真剣に作業に見入っていた。

また，製作の過程でできたサヌカイトの屑を記念に持って帰る人も多かった。

「磬石」　石器製作実演

今回の特別企画の開催にあたっては，上記の方々の他にもたくさんのみなさんのご好意，ご協力をいただきました。記してお礼に代えさせて頂きます。

機材など　　株式会社ネクサス
題　　字　　橋本篤男
スライド提供　福本素晴

「磬石」　石琴

4．情報誌「ほるほる」の発行

発行形態　　不定期発行
体裁　　B4二つ折り
　　ページ数不定

P.35～68の載録を参照のこと

当センターの利用促進，催し物の広報などのために情報誌を発行した。小学校中学年～中学生とその保護者を対象に想定し，親しみやすくて読みやすいものを，という方針で編集している。

読者参加が可能になるよう，アンケート，質問の受付などを行っているが，他の業務の間をぬって作成しているため発行が不定期であり，入館者からのリアクションになかなか即応できないことが問題点といえるだろう。

今後は定期刊行を目指したい。

「磬石」　石琴にふれる子供たち

「磬石」　展示をみる人達

5．おしえて！おしえて！のコーナー

10月に入って，展示室の学習コーナーに質問用紙と回収箱を設置し，子供たちからの質問に答えるコーナーを開始した。回答は掲示板および「ほるほる」誌上で行っている。

子供らしい着眼点のもの，ちょっと意外なものなどがあり，子供たちがむかしのどういったことに興味をもっているのかを知る上でよい参考になる。回答の作製は案外大変であるが，こちらも結構楽しく勉強させてもらっている。

ただ，大量の質問を処理しきれておらず，回答が遅れ気味になっている。

今後もこのコーナーは継続して行っていく予定である。

◎ 質問用紙 ◎

古代のことや考古学のことでわからないことや知りたいことがあったら、この紙に書いてください。

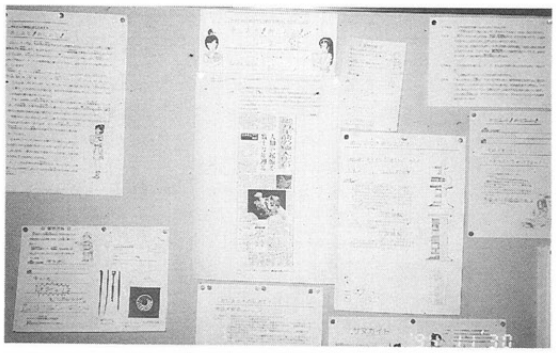
埋蔵文化財センター情報誌「ほるほる」の「おしえて！おしえて！」のコーナーでおこたえします。

お名前（よみがな）

質問

アンケート回収の箱にいれるか受付のひとにわたすかしてください

質問用紙



おしえて！おしえて！のコーナー

6．まとめ

本センターは複合施設の内に設置されている。他センターへの来館者が立ち寄ることも多いため，利用者はかならずしも文化財に興味を抱いている人ばかりではない。この利点を生かすためには，講座，催し物などは，本年度のもののように，専門性よりも一般性を重視し，間口を広くとったものであることが望ましい。楽しく開かれた企画であればあるだけ，より多くの人達へのアピールが可能となるからである。

ほるほる君

多少変わった企画であってもよいと思う。それをきっかけに，いままで埋蔵文化財にふれる機会の少なかった多くの人達に，敬遠することなく埋蔵文化財に近づける雰囲気をつくりたい。そこから，普及事業をはじめたいと思う。そして，まずは「文化財の保護という仕事がある」ということだけでも，参加してくれた人達に知ってもらいたい。

今後もこのような企画を，さらに多くの人達に開かれた形で行っていきたい。

また，情報誌などの印刷物についても，イラストを多用し，平易な表現と遊戯性を重視した編集を心掛けている。このような配布物についても，上記と同様により多くの人に開かれたものでありたいと思っている。

（中野）

Ⅲ 調査事業

1993年度調査一覧表

No.	遺跡名	調査地	調査原因	区別	調査期間	遺物・遺構の有無
1	船津原貝塚	粒江578－1～585番地	水路改修	立会	93. 4.13	遺物・遺構無し
2	日畑橋遺跡	日畑字藤木1031－3	宅地造成	確認	4.27	弥生土器他
3	広江・浜遺跡	広江296番地先	水路改修	立会	5.25	遺物・遺構無し
4	塩生遺跡	塩生字濱1958－1外	宅地造成	発掘	6.22～ 7.21	製塩土器他
5	阿津・走出遺跡	阿津1丁目18番地先	下水道管埋設	立会	7.20	遺物・遺構無し
6	上東遺跡	上東527	宅地造成	立会	8. 5	遺物・遺構無し
7	東元浜南貝塚	玉島柏島字大財4283－1	墓地造成	立会	9.20	遺物・遺構無し
8	うしぐそ山遺跡	羽島1000－49番地先	道路改良	立会	9.10	遺物・遺構無し
9	矢部向山1号墳	庄新町935外	宅地造成	立会	9.16	遺物・遺構無し
10	島地貝塚	玉島八島150番地先	下水道管埋設	立会	9.21	遺物・遺構無し
11	酒津－水江遺跡	酒津2825	歩道擁壁造成	立会	9.28	遺物・遺構無し
12	酒津－水江遺跡	酒津2862－2	歩道擁壁造成	立会	9.28	遺物・遺構無し
13	酒津－水江遺跡	水江166－1	道路改良	立会	10.15	遺物・遺構無し
14	沙美東海岸遺跡	玉島黒崎4780番地先	道路改良	立会	10.21	遺物・遺構無し
15	酒津－水江遺跡	酒津1666.2825	水路改修	立会	11.17	遺物・遺構無し
16	上東遺跡	上東120－3番地先	水路改修	立会	11.24	遺物・遺構無し
17	下津井城跡	下津井字城山1103－1	公園整備	立会	11.26	遺物・遺構無し
18	日畑廃寺	日畑425－2外	宅地造成	確認	11.30～12.15	瓦片他
19	琴浦堀江遺跡	児島下の町8丁目	水道管埋設	立会	12.16	遺物・遺構無し
20	矢部貝塚	矢部1885	池の堤体改修	立会	12.16	遺物・遺構無し
21	中帯江貝塚群B	中帯江270	水路改修	立会	94. 1.14	遺物・遺構無し
22	上東遺跡	下庄747番地先	水路改修	立会	1.18	遺物・遺構無し
23	曽原遺跡	曽原416－1番地先	水路改修	立会	1.18	遺物・遺構無し
24	新熊野山遺跡	林692	石塔建立	立会	1.19	遺物・遺構無し
25	新熊野山遺跡	林672	公園トイレ改修	立会	2. 8	遺物・遺構無し
26	真弓池遺跡	福田町福田422.423	池の堤体改修	立会	2.18	遺物・遺構無し
27	島地貝塚	玉島八島10－3番地先	下水道管埋設	立会	2.22	遺物・遺構無し
28	乗越貝塚	玉島八島288－5番地先	下水道管埋設	立会	2.24	遺物・遺構無し
29	酒津－水江遺跡	酒津2628番地先	遺跡範囲確認	確認	3. 9～ 3.30	弥生土器・住居址
30	大日窯址	玉島八島2987－1番地先	水道管埋設	立会	3.18	遺物・遺構無し
31	上東遺跡	上東219番地先	水路改修	立会	3.23	遺物・遺構無し

調査地位置図（S＝100,000）

日畑橋遺跡確認調査報告

遺 跡 名　　日畑橋遺跡
調 査 地　　倉敷市日畑字藤の木1031－3（調査地位置図２）
調査期間　　1993年４月27日

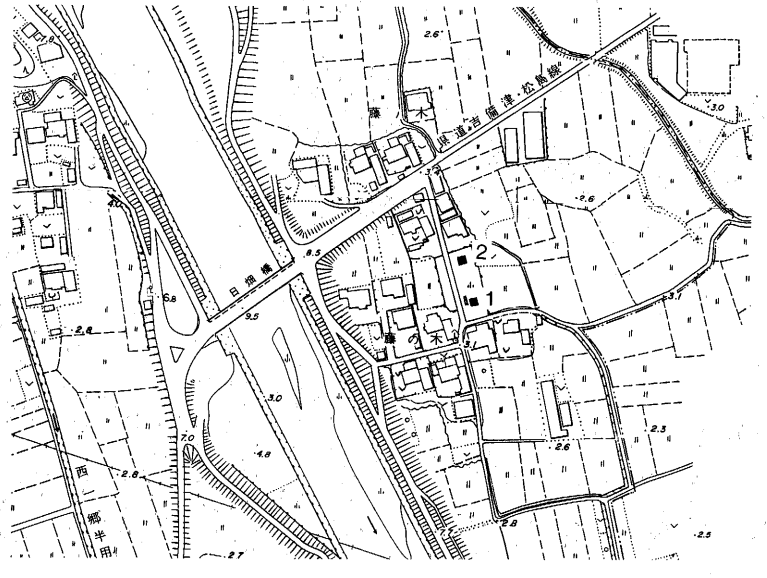
本調査は，分譲住宅建設に先立ち，遺跡の性格を明らかにするために行った確認調査である。

調査地は，足守川の東岸にあたり，県道吉備津－松島線から南へ約70ｍほど入った藤の木の小集落の東よりに位置する。現況は荒れ地となっているが，以前は住宅等が建っており，周辺は土盛がされている。

調査は，建設予定地内に２ｍ×２ｍのトレンチを２箇所設定し行った。このうち調査区南よりのトレンチ１では，現地表面下約85㎝（標高約2.5ｍ）で灰褐色の遺物包含層に達する。厚さ約50㎝の遺物包含層は，大きく２層に分けることができる。遺物は少量ではあるが，主に上層より出土しており，弥生時代後期の甕・壺片等がみられる。遺物包含層の下には，暗黄灰褐色の砂質の強いよく締まった土層がみられ，遺物等も全く含まれておらず，あるいはこの遺跡の基盤層に相当するものかも知れない。なお本トレンチからは，遺構は検出されていない。

トレンチ１から北へ約25ｍ離れた位置に，トレンチ２を設定した。トレンチ２においても基本的な層序，高さ等はトレンチ１とほとんど変わらないが，遺物包含層は４層に分けることができた。このうち最も上層からは，わずかながら中世土器片が検出されているが，以下の層はすべて弥生時代後期の土器片を伴っている。遺構としては，標高2.4ｍ付近で４基の土壙が検出されている。土壙はいずれも円形で，径15～80㎝，深さ10～20㎝を測る。このうちの１基からは，土師質土器片と備前焼片が検出されており，中世のものと思われる。

1991年度に今回の調査地点から北東に約50ｍほど離れた地点で確認調査が行われており，そこでは湿地状の土層が確認されている。今回の調査地点は，トレンチ１で見られたように遺物包含層とともに，遺跡の基盤に相当するような土層も確認されていることから，弥生時代の微高地の縁辺付近にあたり，遺跡の中心は現在の藤の木の小集落付近であると思われる。　　（福本）



トレンチ配置図（Ｓ＝１／5,000）

日畑廃寺確認調査報告

遺 跡 名　　日畑廃寺

調 査 地　　倉敷市日畑425－2外（調査地位置図18）

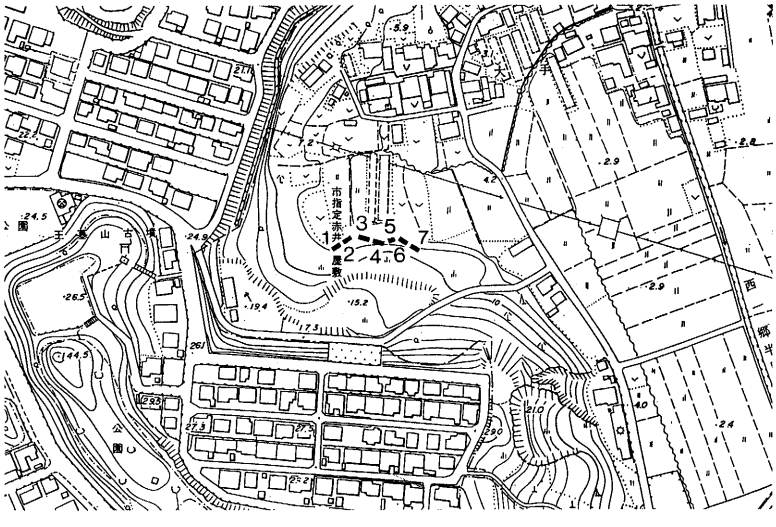
調査期間　　1993年11月30日 ～ 12月15日

日畑廃寺は，赤井堂屋敷とも呼ばれる白鳳時代の寺院跡で，吉備寺式の軒丸瓦や重弧文軒平瓦などの出土が知られている。倉敷市では最古の寺院跡として昭和46年に市の史跡に指定されているが，寺域や伽藍配置などの詳しいことについてはわかっていない。

平成5年7月，この日畑廃寺のすぐ南に接して宅地の造成が計画された。当該地はもともと北へ向かって延びる斜面であったが，いつの頃からか，南側の道路から土砂等の不法投棄が行われるようになり，今ではその高さが10m程にも達し，土砂の先端は北側の畑の直前にまで迫っている状態であった。造成工事はこの土砂を利用する計画であったため，遺跡の確認調査は，土砂を除去することが可能な北側擁壁部分を中心に，合計7箇所のトレンチを設定して行った。

調査の結果，トレンチ1～7の全てにおいて，白鳳時代の瓦を含む茶褐色の遺物包含層が確認された。また，トレンチ2・3・6・7ではこの層の直下に灰褐色の粘質土が存在し，同じく白鳳時代の遺物を含んでいる。これらの包含層の厚さはトレンチによってかなりの差があり，最も薄いトレンチ3・4で約20cm，最も厚いトレンチ6・7では70～100cmにも達する。包含層の堆積が比較的厚いトレンチ2・3・6・7では，それぞれ2～3層に分層可能であるが，出土遺物から時期的な差はほとんどないと考えられる。包含層の直下には，基盤層である黄褐色粘質土が存在する。基盤層の高さはトレンチ3からトレンチ4にかけて少し高くなるものの，全体的には西から東へ向けて低くなっている。

遺構としては，トレンチ1を除く全てのトレンチでピットあるいは小土壙を検出したが，トレンチ2の北西端で確認した土壙を除けばいずれも残存状況は悪く，トレンチの断面でしか確認できないものも多かった。出土した遺物の大部分は白鳳時代の丸瓦と平瓦で，整理用コンテナ10箱程度が出土しているが軒瓦としては，トレンチ2から重弧文軒平瓦の小片が1点確認されているにすぎない。　　（鍵谷）



トレンチ配置図（S＝1／5,000）

酒津－水江遺跡確認調査報告

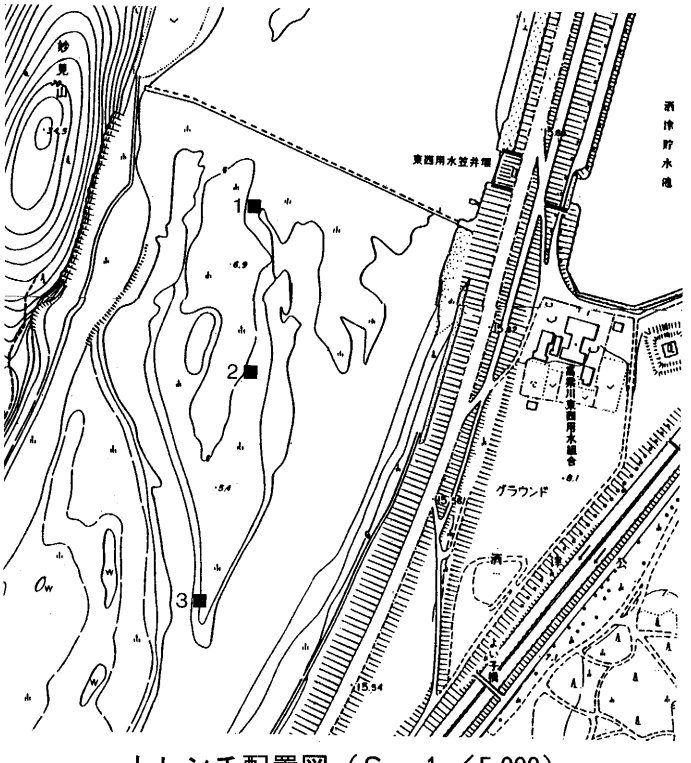
遺 跡 名　　酒津－水江遺跡
調 査 地　　倉敷市酒津2628番地先（調査地位置図29）
調査期間　　1994年３月８日～３月31日

酒津－水江遺跡の範囲確認調査は，高梁川河川敷に存在する遺跡の一部が流水等により年々損傷を受けているため，昭和53年度より継続的に調査を実施しているものである。平成５年度は，第16次の調査を行った。

本年度の調査地は，高梁川河川敷の笠井堰下流に存在する中洲部分である。中洲周辺の河岸断面には，現状で遺物包含層が露出しており，出水のたびに包含層が削り取られ，多くの遺物の流出が認められるところである。

調査は，このうち特に流出の危険性が高い中洲の北端部，中央部東側，南端部の３箇所について４ｍ×４ｍのトレンチを掘開し行った。調査の結果，いずれのトレンチにおいても遺構・遺物が確認され，とりわけ第２・３トレンチからは，古墳時代の住居跡が検出された。

第１トレンチは，周囲の河岸断面に厚さ40～50㎝程の茶褐色の遺物包含層が存在しており，トレンチ部分にも厚い遺物包含層の堆積が予想された。しかし，調査の結果は，現地表面下1.2ｍ付近までは河川の堆積に伴う砂礫・細砂層が続き，遺物包含層の大半は河川の増水時に大きく削平され，黄褐色土の基盤層上にわずか10～15㎝程度認められたのみであった。



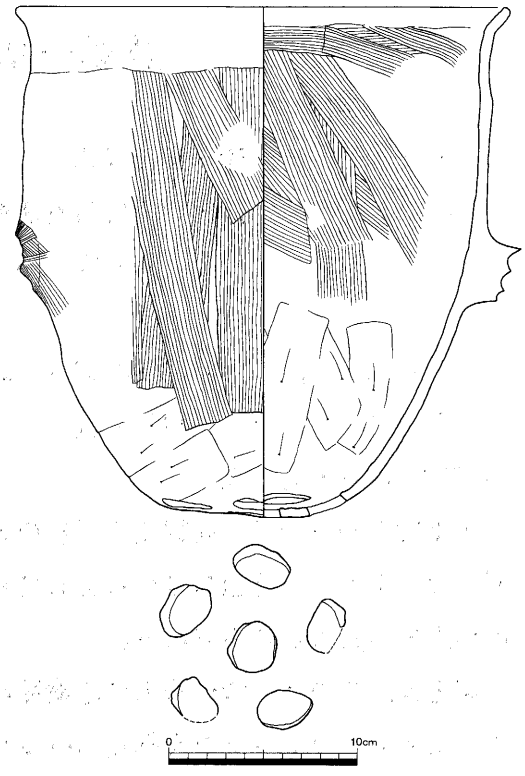
トレンチ配置図（Ｓ＝１／5,000）

検出された遺構は，トレンチ南西部の落ち込み状の遺構と南東部の浅い土壙のみであった。落ち込み状の遺構は，トレンチ南西隅で約40㎝の深さで緩やかに段状に落ちている。遺物は，埋土内に古墳時代の土師器・須恵器等が検出された。南東部の土壙は，落ち込み状の遺構によって切られ，一辺約1.1ｍの隅丸方形で深さは12㎝と浅いものであった。遺物は検出されていない。

第２トレンチの周辺は，増水時の流路になる所で大きな凹地となっており，この凹地の底には増水時に洗い出された茶褐色の遺物包含層とそれに含まれる多くの土器片が散布している。この凹地の西寄りにトレンチを掘開したところ，トレンチの東端部

は流水により削平されているものの，西半部からは小土壙群・落ち込み・竪穴住居跡が検出された。

小土壙は，計４個ありいずれも円形を呈し，直径は15～40㎝，深さは６～20㎝を測る。落ち込みはトレンチ西端に沿って２箇所検出された。いずれもトレンチ外に続くため規模は不明であるが，上層のものは，深さ約40㎝である。この埋土中からは，土師器等が検出されている。下層の落ち込みは，基盤層と思われる黄褐色土から深さ約70㎝で，かなり急な角度で掘り込まれており人工の溝状遺構の可能性もある。遺物はあまり多くないが，弥生時代中期中葉の甕片が出土している。



第２トレンチ出土甑

竪穴住居跡は，トレンチ南半部で検出されたが，全体の４分の１程度が検出されたのみで，規模等については不明である。平面プランは方形を呈しており，検出面での深さは約10㎝，壁体に沿って幅15㎝ほどの溝がめぐっている。柱穴は，住居隅から約90㎝離れて，径約40㎝，深さ約25㎝の円形のものが検出された。住居跡床面からの出土遺物は，土師器の甑１個体・土師器高坏および須恵器甕片等が出土している。

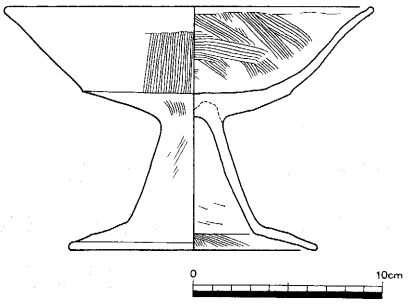
甑は，口径25.8㎝，器高27.0㎝を計り，焼成は良好である。色調は，内外面とも淡灰黄色を呈し，胎土は１～２㎜前後の石英，0.5㎜前後の長石を多く含む。外面底部は，ヘラケズリが施され，頸部から胴部下半にかけては，縦方向のハケメが施されている。内面は，胴部半ば近くまでヘラケズリが施され，その上半部はハケメを施している。底部には，６個の穿孔が認められる。

出土遺物から住居跡は，古墳時代後期のものと考えられる。

第３トレンチ周辺は，増水時の流路による凹地状となっており，一部遺物包含層が露出している。また，トレンチ西側の河岸断面には，厚さ40～50㎝の明瞭な遺物包含層が広範囲にわたってみられ，土器片等も認められる。中洲の南端に掘開したトレンチからは，時期の異なる小土壙群および竪穴住居跡検出された。このうち，上層の小土壙群は15個検出されている。いずれも，円形を呈しており，径は18～55㎝，深さ10～15㎝程度である。土壙内から遺物はほとんど検出されていないが，土壙群の一部で竪穴住居を切り込んでいるものがみられ，古墳時代以降のものであることがわかる。また下層の小土壙群は，トレンチ東半で住居跡が検出されたため，西半のみの調査となったが，７個の小土壙を検出した。いずれも径20～30㎝の円形で，深さは10㎝程度と浅い。

竪穴住居跡はトレンチの東半部分で検出され，平面形を確認するためにトレンチ北東部分を一部拡張した。この結果，住居跡は隅丸の方形を呈するもので，一辺が4.2ｍ以上あることが確認

された。住居跡の検出面での深さは約40cmあり，壁体に沿って幅約10cm，深さ約7cmの溝がめぐっている。壁体の溝は，住居跡西側で2本に分かれており，一度壁体の修復ないしは拡張が行われたことが認められる。なお，トレンチ内で住居跡に伴う柱穴は確認されていない。住居跡に伴う遺物は，あまり多くないが，埋土中より土師器の壺・高坏等が出土している。



第3トレンチ出土高坏

高坏は，口径19.5cm，器高12.9cmを計り，焼成は，良好である。色調は，内外面ともにぶい灰褐色を呈し，胎土は緻密で1mm前後の石英，0.5mm前後の長石を多く含む。坏部の調整は，内外面ともハケメが密に施されている。脚部外面は，表面の摩滅により一部にハケメが認められるのみである。内面は，脚底部に底面から見て左周りにハケメが施され，脚軸部内面は，左周りにヘラケズリが施されている。

出土遺物からおおむね古墳時代前半期に含まれるものと考えられる。

今回の調査は，以前から断面観察等により広く遺跡の存在が確認されていた中洲部分の調査を行ったが，改めて弥生時代から古墳時代にかけてを中心とする保存状況の良好な遺構の存在が確認できた。また，竪穴住居跡の検出から，現在の中洲部分は当時微高地であったことがうかがえられた。

（片岡）

塩生遺跡発掘調査報告

遺 跡 名　　**塩生遺跡**

調 査 地　　**倉敷市児島塩生字浜1958－1，191（調査地位置図４）**

調査期間　　**（確認調査）1993年６月22日 ～ ７月21日**

　　（発掘調査）1994年１月20日

塩生遺跡は，児島半島西岸に位置する，倉敷市児島塩生の旧海岸に形成された砂州の上に立地している。古墳時代後期の製塩土器，いわゆる師楽式土器を多量に出土する製塩遺跡として知られる。そして，以前に宅地を掘り下げたところ，弥生時代前期の無頸壺が発見されたことから，人々の生活跡はすくなくともこの時代ににまでさかのぼると考えられている。

平成５年５月，当該地に賃貸マンションの建設が計画されたため，同年６月から７月にかけて塩生遺跡の範囲確認調査を行った。その結果，開発予定地全域にわたって遺物包含層，遺構が存在することが明らかとなり，遺跡に影響を及ぼさないよう地表面より約1.2ｍ盛土造成を行う工法に変更された。それでもなお遺物包含層，遺構に影響を与える浄化槽の設置部分については，平成６年１月に発掘調査を実施した。

範囲確認調査では，任意の６地点にトレンチを設定して行った。その結果，トレンチ６をのぞ

トレンチ配置図（Ｓ＝１／5,000）　１～６は確認調査のトレンチ番号，７は浄化槽。

く5地点において，地表下20㎝～40㎝の高さで遺物包含層が確認された。いずれも黒褐色の砂質土で，古墳時代後期の製塩土器を多量に含み，ほかに古墳時代後期の須恵器，土師器，奈良・平安時代の須恵器，土師器，黒色土器が少量混在している。トレンチ1からは石鏃が，トレンチ5からは，古墳時代後期の製塩土器に先行する，器壁の薄い粗製の小型鉢形土器が出土している。

トレンチ2，トレンチ4では，遺物包含層とその下の砂層を掘り込んで土壙をつくり，内側に粘土を張った遺構が検出され，それぞれ1号土壙，2号土壙とした。この土壙は，上部は削平されていると思われるが，平面形は円形で，底が平らになっている。

1号土壙は粘土の部分を含めると，検出面での直径が約2.3m，底径1.5m，深さ80㎝である。粘土は青灰色で，土壙の立ち上がり部分の厚みは約10㎝，底部の厚みは30㎝～40㎝を測る。埋土中には古墳時代後期の製塩土器を中心とした遺物や拳大の礫が含まれる。この礫のなかには焼けたものもみられる。

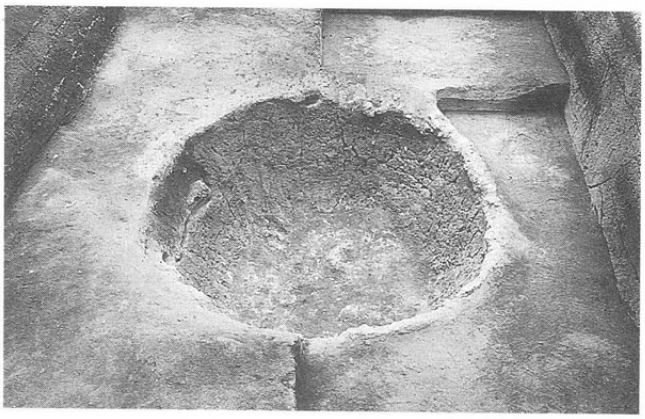
2号土壙は，検出面では直径が約2.1m，底部1.4m，深さ85㎝を測る。粘土は1号土壙と同様のものを用い，厚さは全体的に6㎝くらいである。粘土壁に対して垂直に打ち込まれた状態で鉄釘が2本出土しており，なんらかの付属の器具を備えていたのであろうか。土壙内には古墳時代～古代の遺物が混入している。また，焼けた石を含む拳大の礫が密集した状態で検出されており，その量は整理箱20個分におよぶ。

これらの遺構の所属時期については，2号土壙内の最下層から凹底の土師質土器椀が出土していることから，中世と考えられる。

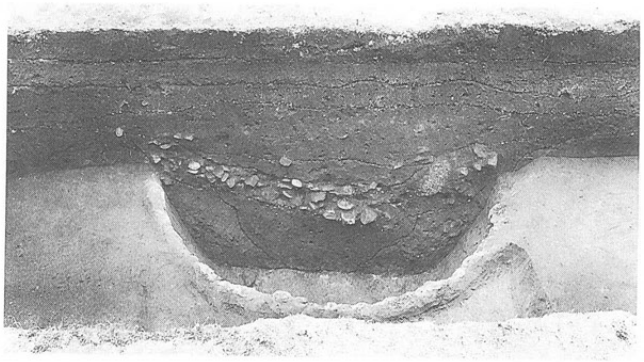
トレンチ6では炉跡が検出され，1号炉跡とした。遺構の上面は削平を受け，東端は60㎝四角のゴミ穴によって破壊されているが，炉の内部の保存状況は良好であった。炉壁の断ち割り調査は行わなかったため，未確認の部分も多いことを記しておきたい。

検出面での炉の内法は東西長1.9m，南北幅は西端付近で最大1.2mを測り，東にいくにつれて狭くなっている。深さは約25㎝である。底面は西から東に向かって緩やかに傾斜しており，東側が焚き口にあたるのかもしれない。炉底面を取り囲むようにして，6個の角礫がバランス良く配置されている。炉面はよく焼けて硬くなっており，黒色を呈する。表面には刷毛状工具による調整痕がみられる。

炉壁は花崗岩バイラン土を含む黄褐色の粘土で構築されている。検出面における炉壁断



2号土壙



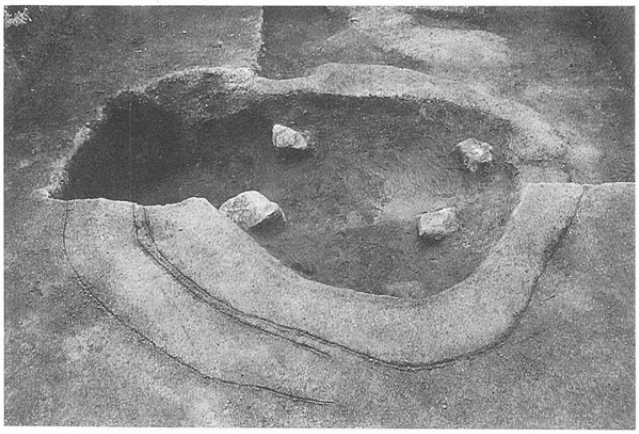
2号土壙内堆積状況

面（削平により断ち切られた面）は厚さ20㎝である。北側で炉壁が重複しており，作り替えが行われたのであろう。炉跡のまわりには，黄褐色粘土をたたきしめた作業面が広がる。

出土遺物は周辺を含めてほとんど無い。

次に，浄土槽の設置部分の調査について概要を述べる。

調査区は３ｍ×２ｍの小さなもので，検出された遺構としては，青灰色粘土張りの土壙と黄褐色粘土をたたきしめた作業面がある。



１号炉跡（北から）

土壙は直径１ｍ程度のすり鉢状のものであるが，上部は後述のとおり，作業面の構築の際に破壊されており，底の一部分だけが残ったものらしい。土壙の内部に，青灰色粘土塊と炉壁が破壊されたものとみられる焼土塊が混入している。このことは，１号土壙，２号土壙のような青灰色粘土張りの土壙と炉跡の同時併存をうかがわせる。

土壙の直上に厚さ５㎝くらいの黄褐色粘土の広がりがあり，土壙が廃棄された後に整地され，新たに作業面がつくられたものと考えられる。

以上が平成５年度に行った塩生遺跡の範囲確認調査および発掘調査である。

今回の調査で検出された土壙の類例は，「大浦浜遺跡」の報告書(1)によると，香川県坂出市大浦浜遺跡，兵庫県赤穂市堂山遺跡，岡山県玉野市沖須賀遺跡，広島県安芸郡蒲刈町沖浦遺跡，福岡市箱崎遺跡で検出されている。同報告書では，土壙に粘土をはった遺構（以下報告書にならって「粘土遺構」と呼ぶ）の性格を製塩に使われた施設とみなすのが最も妥当であるとしている。このなかで，塩生遺跡例に類似しているのが，大浦浜遺跡12号，13号，24号土壙，沖賀遺跡３号土壙である。大浦浜遺跡24号土壙は埋土中に石が多く，熱変化を受けているため火を使う用途があったとされるが，塩生遺跡例では埋土中に焼けた石がみられるものの，粘土壁は火を受けた痕跡が認められないことから，焼石は粘土遺構とは別の火を使う用途をもつ施設のものと考えたい。

塩生遺跡１号炉跡については，沖須賀遺跡４号炉に類似している。同遺跡報告書(2)では，「粘土遺構」と炉をセットとしてとらえ，それぞれ鹹水を集めておく鹹水溜土壙，鹹水を大型の容器で煎熬した炉と性格づけている。塩生遺跡でも粘土遺構と，焼土塊から存在が予想される炉跡との密接な関係がうかがえる。

以上，塩生遺跡で検出された遺構は製塩に関する施設で，１号土壙，２号土壙は鹹水を溜める施設であり，１号炉跡は鹹水をなんらかの容器を用いて煎熬する炉と考えられる。　（小野）

註

(1)　香川県教育委員会「大浦浜遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ』 1988

(2)　玉野市教育委員会「沖須賀遺跡」『玉野市埋蔵文化財発掘調査報告（2）』 1981

Ⅳ　資料紹介

経寺山２号墳出土の須恵器

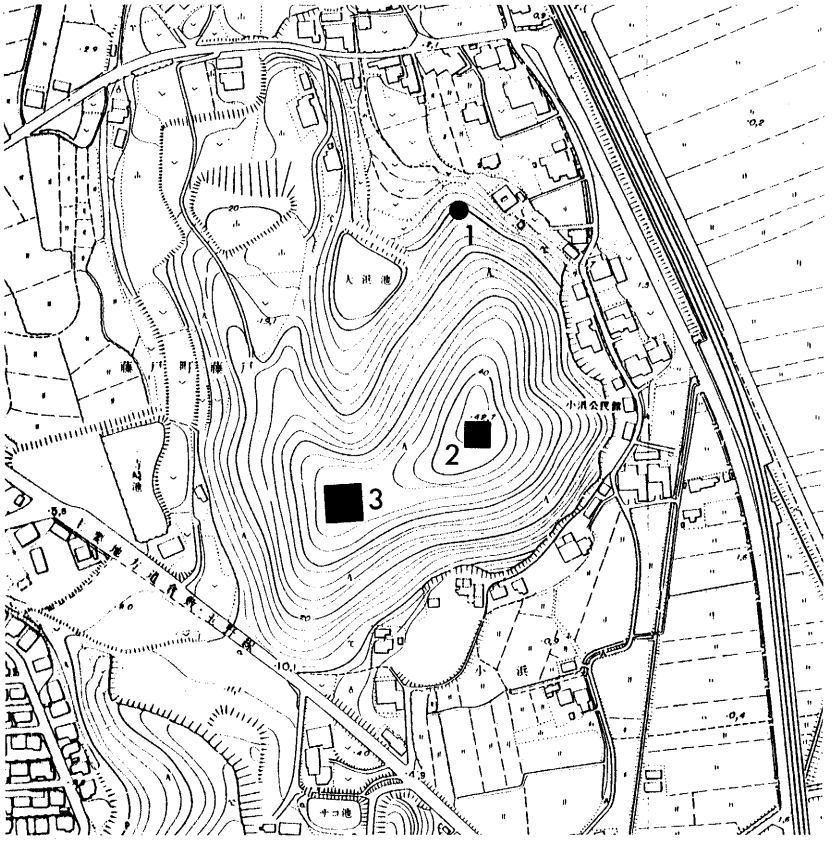
藤　原　好　二

１．はじめに

今回，紹介する資料は倉敷市藤戸町藤戸に所在した経寺山２号墳から出土したとされるものである。

倉敷市教育委員会では宅地造成に伴い，1992年12月14日から1993年１月13日にかけて藤戸町藤戸に所在する経寺山１号墳及び寺崎山古墳を調査した。その結果，２基の古墳からは埴輪片が出土し，共に古墳時代前期の方墳であることが判明した。残念ながら後世に主体部を削平されていたが，古墳の所在する丘陵は児島の北に突き出た岬状を呈しており，吉備の穴海を児島の北岸に沿って航行する船舶を見下ろす立地である。墳形とあわせて興味深い点である(1)。

さて，この調査の際に基礎知識を得るために『藤戸町誌』(2) をめくっていたところ，経寺山の北麓にもかつて古墳が存在し，須恵器等が出土して地元で保管されていることがわかった。この古墳は倉敷市発行の文化財分布図では経寺山２号墳として登録されている。『藤戸町誌』では経寺山北麓古墳として記載されているが，本稿では『倉敷市文化財分布図』(3) の呼称に従い，以後経寺山２号墳に統一することとする。経寺山２号墳が所在したとされるのは，経寺山１号墳から北に続く尾根の先端，標高約10ｍ程の付近とされる。しかし，この付近は現在，新設の道路によって破壊されており，古墳の位置は全く確認できない状況である『藤戸町誌』では「巨石一個を残し，円墳らしい土盛りが見られる」としており，『町誌』の編纂された昭和30年代頃には既に石室は破壊されていたのであろう。須恵器の時期などとあわせて，横穴式石室をもつ円墳かと考えられる。



位置図（Ｓ＝１／5,000）

１　経寺山２号墳　　２　経寺山１号墳　　３　寺崎山古墳

遺物が掘り出されたのは，昭和15年頃といわれるが出土状況

などの詳細は不明である。しかし，児島における古墳の調査・報告は現在でも数件に過ぎない。そうした中で本例は児島西北部の須恵器資料として貴重なものと考えられる。

2．遺物

『藤戸町誌』に記載されている遺物は以下のとおりである。

須恵器　坏　蓋坏　盌　瓹　横瓶

土師器　さら　はち

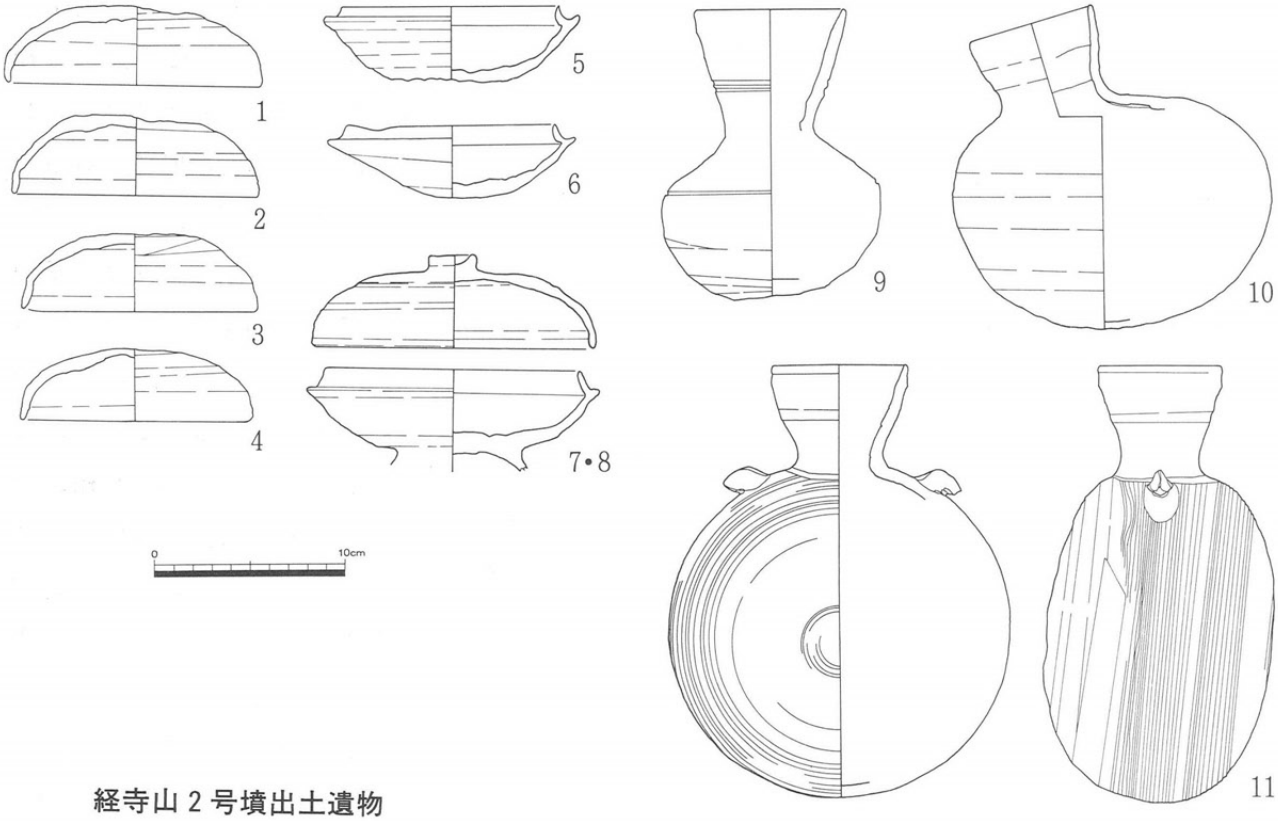
金環

経寺山２号墳出土須恵器

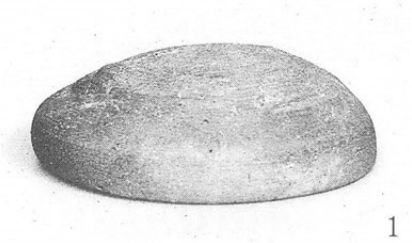
金環は１個と記されているが，土器の器種ごとの数量は不明である。『藤戸町誌』の挿図写真には坏蓋３点（内１点は坏として記載），坏身２点，脚付椀１点（盌と記載），直口壺１点（瓹と記載），平瓶１点（横瓶と記載）が写っている。このうち現在，確認できるのは須恵器だけで坏蓋４点，坏身２点，直口壺１点，平瓶１点である。また『藤戸町誌』に記載のないものとして堤瓶，有蓋高坏各１点がある。計11点である。以下に観察結果を述べる。

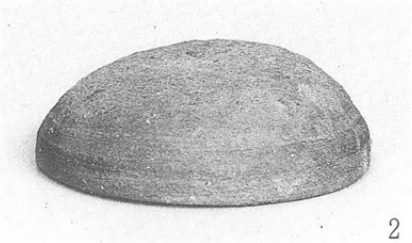
坏蓋（１～４）

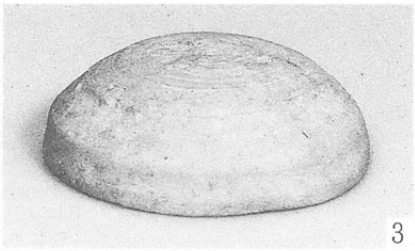
坏蓋は４個体ある。１・２がやや径が大きく約13㎝程度，３・４はやや丸みを帯びた形状で口径約12㎝程度である。いずれの個体も口縁端部は丸くおさめている。２・３は天井部から口縁部

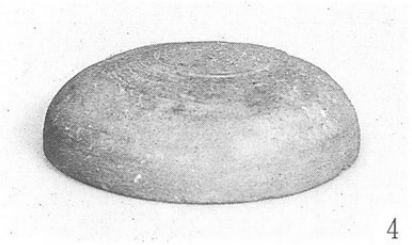


経寺山２号墳出土遺物

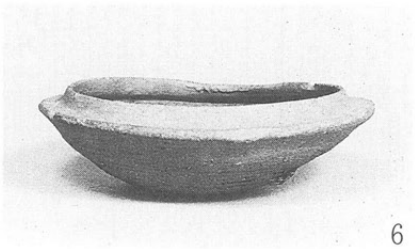

1


2


3


4

5


6

7・8

8

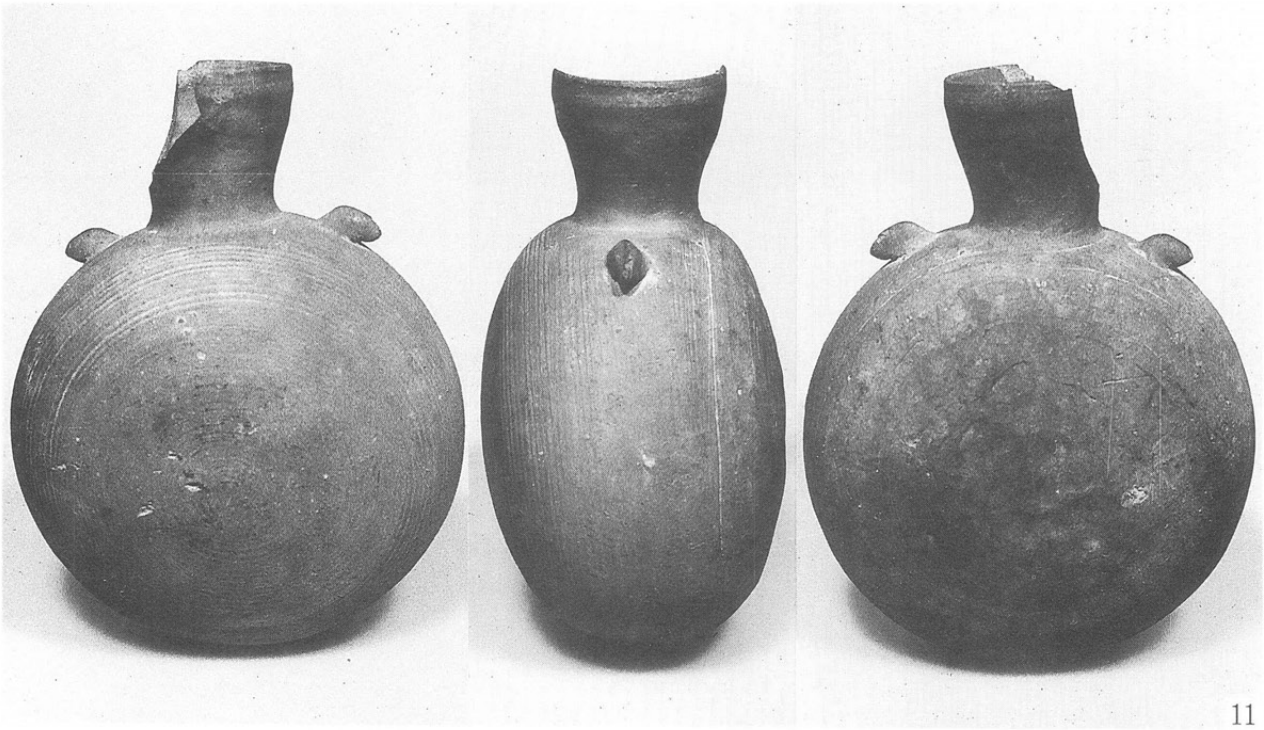
にかけてわずかに屈曲している。外面の調整はすべて天井部からヘラケズリを施し，回転ナデで仕上げている。ヘラケズリの方向は1・2が右回りで，3・4は左回りである。内面の調整は基本的に回転ナデだが，2・4にはナデの前の指押えの痕跡が顕著に残っている。また，1・4は内面天井部に仕上げナデを施している。

9

10

坏身（5・6）

5は底部は平坦で，口径は11.5㎝，器高は3.8㎝である。調整は底部外面が左回りのヘラケズリ，底部内面が指押えの後ナデで仕上げられている。6はかなり器形にひずみがあるが，口径は10.8㎝，器高は3.9㎝である。調整は底部外面が左回りのヘラケズリ，底部内面が指押えの後ナデで仕上げられている。



11

坏身・坏蓋のセット関係は不明である。

有蓋高坏（7・8）

8の受部には焼成時の癒着痕があり，7と一対であることがわかる。調整については蓋はつまみを除く天井部が左回りのヘラケズリである他はすべて横ナデである。坏部も底部外面が左回りのヘラケズリである他はすべて横ナデである。脚は基部付近を除くと欠損しており，高さ及びスカシの形状・数は不明である。しかし，基部が絞られておらず大きく開がることから，短脚ではないかと考えられる。

直口壺（9）

口頸部の中央よりやや下に粗雑な二条の沈線が巡り，口縁端部は丸くおさめている。体部の最大径は中心部よりやや上にあり，肩部には一条の沈線が巡っている。調整は体部下半 ⅓ ほどに左回りのヘラケズリが施され，その他の部分は横ナデで仕上げられている。

平瓶（10）

口縁部はまるくおさめている。口頸部内側には接合線が残っている。つまみは持たない。調整については体部下半 ⅓ までは右回りのヘラケズリで，それ以外は横ナデで仕上げられている。

堤瓶（11）

口頸部内面には接合線が残っている。体部側面の肩部に鉤状の把手が付けられている。調整については，体部腹面から側面にかけては同心円状にカキメが施されており，背面は指押えと左回りのヘラケズリで処理されている。口頸部は横ナデで仕上げられている。

現在，所在の確認できない土師器・金環については詳しいことがわからないが，脚付椀について『藤戸町誌』の写真をみるかぎり，短脚で脚部にスカシはないようである。

3．まとめ

紹介資料には『藤戸町誌』に記載のあるものとないものが存在するが，記載のないものについては口縁部あるいは脚部が破損しているために記載しなかった可能性がある。付近に古墳が存在しないわけではないが，須恵器を出土したとの伝承のあるものはなく，また資料は木箱に「経寺山北古墳出土」と記されて厳重に保管されており，他の古墳の遺物が混入した可能性は少ないと考える。

須恵器の時期は，およそ陶邑古窯址群の編年でＴＫ43からＴＫ209にあたり，６世紀後半から７世紀初頭にかけてと考えられる。山頂に位置する経寺山１号墳及び寺崎山古墳とは時期的にかなりへだたりがあり，両者の関係を系譜的にみるのは少しためらわれる。しかしいずれにしても，周辺には可耕地は少なく，農業生産基盤に欠けること，また，海を望む立地であることから，海上交通あるいは製塩などに関係した人物の墳墓であることは，３基の古墳とも同様であろう。

また藤戸の南の郷内盆地には７世紀前半の亀ケ原一式を初源とする須恵器窯も残されており，これらとのつながりも興味深い点である(4)。

この報告をおこなうにあたり資料の所有者および倉敷埋蔵文化財センターの方々からは多大のご教示，ご協力をいただいた。資料の実測は中野倫太郎・片岡弘至の協力を得た。また古墳の所在地の詳細については倉敷市文化財保護審議会委員小野一臣氏にご教示いただいた。末筆ながら記して感謝の意にかえさせていただきます。

註

(1) 倉敷市教育委員会「藤戸地内文化財調査報告」『倉敷市埋蔵文化財調査年報２』 1993

(2) 藤戸町誌編集委員会『藤戸町誌』 1955

(3) 倉敷市教育委員会『倉敷市文化財分布図』 1975

(4) 伊藤晃「窯業」『岡山県の考古学』近藤義郎編　吉川弘文館　1987

経寺山２号墳出土須恵器の観察（色調は『新版標準土色帳』1992年版による）

番号	種類	法量(cm)	技法上の特徴	胎土	色調	焼成	備考
1	坏蓋	口径13.6 器高 4.2	天井部に右回りのヘラケズリ後ナデ 内面に仕上げナデ	1㎜大の長石を含む	内 N4／0 灰色 外 N5／0 灰色	良	
2	坏蓋	口径13.0 器高 4.3	天井部に右回りのヘラケズリ後ナデ 内面に指押え後ナデ	1㎜大の長石を含む	内 5P4／1 紫灰色 外 N5／0 灰色	良	
3	坏蓋	口径12.4 器高 4.1	天井部に左回りのヘラケズリ後ナデ 内面にナデ	0.5㎜大の長石を含む	内 7.5Y7／1 灰白色 外 7.5Y7／1 灰白色	良	
4	坏蓋	口径11.3 器高 3.9	天井部に左回りのヘラケズリ後ナデ 内面に指押え後仕上げナデ	2～3㎜大の長石を含む	内 N5／0 灰色 外 10GY5／1 緑灰色	良	
5	坏身	口径11.5 最大径13.6 器高 3.8	外面に左回りのヘラケズリ後ナデ 内面に指押え後ナデ	0.5㎜大の砂粒を若干含む	内 5PB4／1 暗青灰色 外 N4／0 灰色 外底部 5P5／1 紫灰色	良	
6	坏身	口径10.8 最大径13.0 器高 3.9	外面に右回りのヘラケズリ後ナデ 内面に指押え後ナデ	0.5～3㎜大の長石・1㎜前後の石英粒を含む	内 7.5Y5／1 灰色 外 2.5GY5／1 オリーブ灰色	良	
7	高坏蓋	口径15.0 器高 5.0	天井部に左回りのヘラケズリ後ナデ 内面に仕上げナデ	1㎜大の長石を含む	内 5PB5／1 青灰色 外 N5／1 灰色	良	8とセット
8	有蓋高坏	口径13.4 最大径15.5 残存高 5.4	坏底部にヘラケズリ後ナデ 内面にナデ スカシは不明	1㎜大の長石を含む	内 5PB5／1 青灰色 外 5PB5／1 青灰色	良	7とセット 脚部欠損
9	直口壺	口径 8.0 最大径11.5 器高15.3	底部は左回りのヘラケズリ その他はナデ	1～3㎜大の長石を含む	内 10Y6／1 灰色 外 10Y5／1 灰色	良	
10	平瓶	口径 6.9 最大径17.0 器高16.9	底部は左回りのヘラケズリ その他はナデ 口頸部内面に接合痕有り	2～3㎜大の長石を含む	内 5RP6／1 紫灰色 外 5PB4／1 暗青灰色	良	
11	堤瓶	口径 7.2 最大径18.1 器高22.9	体部は右回りのヘラケズリ 体部（被蓋部）はカキ目調整 その他はナデ	1㎜大の長石を含み，細かい	内 7.5Y6／2 外 7.5Y6／2 灰オリーブ色	良	

V　寄贈図書一覧（93. 4. 1～94. 3. 31）

【北海道　01】	
苫小牧市埋蔵文化財センター	美沢11遺跡，美沢東遺跡発掘調査概要報告書
(財)北海道埋蔵文化財センター	調査年報5
【青森県　02】	
青森県埋蔵文化財調査センター	埋文あおもり第12号
【岩手県　03】	
(財) 岩手県文化振興事業団	紀要XⅢ
【宮城県　04】	
多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市文化財調査報告書第33集，同34集
【福島県　07】	
(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	安積野のパイオニアたち
【茨城県　08】	
(財)茨城県教育財団	年報6，同10，同11
土浦市教育委員会	木田余台，土浦城址発掘調査報告書，八幡下遺跡，開かれた古代への扉
【栃木県　09】	
栃木県文化振興事業団	やまかいどうNo.3・4合併号，同No.5号，同No.6号，埋蔵文化財センター年報第3号
【群馬県　10】	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	埋文群馬No.15・16合併号，同No.17・18合併号，同19・20号，年報12，遺跡に学ぶ第1・2号
【埼玉県　11】	
埼玉県立さきたま資料館	調査研究報告第6号
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	縄文の祈りと造形，埋文さいたま第1～15号
埼玉県立埋蔵文化財センター	埼玉県立埋蔵文化財センター年報2，埼玉県立埋蔵文化財センター要覧
鶴ヶ島市教育委員会	三ツ木遺跡，新右衛門遺跡
【千葉県　12】	
市川市教育委員会	市川市内遺跡発掘調査報告
(財)市原市文化財センター	市原市文化財センター研究紀要Ⅱ，私たちの文化財20，草刈尾梨遺跡，市原市椎津茶ノ木遺跡
(財)印旛郡市文化財センター	遺跡から見た印旛の歴史，(財)印旛郡市文化財センター年報8，(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第32・58・64・65・68・72・73集
国立歴史民俗博物館	歴博58・59・61～63，国立歴史民俗博物館研究報告第47～50・52～55，データベースれきはく申請の手引き，データベースれきはく検索の手引き「歴博図書目録データベース」・「日本荘園データベース・荘園関係文献目録データベース」・「民俗誌データベース」，日本出土の貿易陶磁西日本編1～3
市立市川考古博物館	ほりのうち，市立市川考古博物館年報第20号
東邦考古学研究会	東邦考古12・13・16・17
(財)長生郡市文化財センター	郷土の文化財11～16，長生郡市文化財センター年報6・7，(財)長生郡市文化財調査報告第8・12・13・15～20集
野田市教育委員会	平成4年度野田市内遺跡発掘調査報告，下山遺跡
【東京都　13】	
東京都教育委員会	埋蔵文化財発掘調査における労働安全衛生要項
東京都埋蔵文化財調査センター	多摩ニュータウンの遺跡と遺物，たまのよこやま
港区立港郷土資料館	港郷土資料館館報11，研究紀要2，港郷土資料館だより第22・23号

【神奈川県　14】	
平塚市教育委員会	山王Ａ遺跡，平塚市埋蔵文化財シリーズ23・24，平塚市文化財調査報告書第28集
【富山県　16】	
富山県埋蔵文化財センター	北陸自動車遺跡調査報告－朝日町編７－，縄文土器の世界，埋文とやま第42・43号，富山県埋蔵文化財センター年報平成４年度，富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告(3)，小杉流通業務団地内遺跡群第10次・11次発掘調査概要
富山県「立山博物館」	たてはく５・７号，富山県「立山博物館」年報第１・２号
(財)富山県文化振興事業団	埋蔵文化財年報(4)，能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告
【石川県　17】	
金沢大学文学部考古学研究室	金沢大学考古学紀要第20号
金沢大学資料館	金沢大学資料館だよりNo.5
【福井県　18】	
福井市教育委員会	剣大谷１号墳発掘調査報告書
【山梨県　19】	
山梨県埋蔵文化財センター	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第57・74・75・80・81・83・85号，年報９
山梨県立考古博物館	考古博物館だよりNo.28
【長野県　20】	
辰野町教育委員会	窪畑遺跡
長野市埋蔵文化財センター	所報No.3
長野市教育委員会	長野市の埋蔵文化財第49・51・52・54～57集
松本市立考古博物館	松本市立考古博物館展示図録
【岐阜県　21】	
各務原市埋蔵文化財調査センター	野口廃寺Ａ地区の発掘調査報告書，かかみがはらの埋文，八龍遺跡Ｂ地区発掘調査報告書
美濃市教育委員会	塚穴古墳群発掘調査報告書
【静岡県　22】	
静岡市立登呂博物館	静岡市立登呂博物館館報１～３，登呂の弥生人，静岡市立登呂博物館20年のあゆみ，むかしの火おこし，登呂の時代，「めし，むすび，もち，すしのルーツ」，特別史跡登呂遺跡，登呂むかしのくらし
【愛知県　23】	
(財)愛知県埋蔵文化財センター	年報平成４年度，愛知県埋蔵文化財情報８，愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第33・43・45～47集
一宮市博物館	市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅱ，古地図にみる，博物館だよりNo.14～16，埋蔵文化財出土展92パンフレット，織りの流れを探る
名古屋市見晴台考古資料館	正木町遺跡第３次調査概要，NN 288号窯・NN 289号窯発掘調査報告書，荒池北古窯（NN 335窯）発掘調査概要報告書，菩薩遺跡題次発掘調査の概要，竪三蔵通遺跡第12次調査の概要，見晴台教室 '91・'92，館蔵品図録Ⅰ，まぼろしの瑞穂遺跡展，弥生土器，古墳時代の人々，弥生時代のはじまり，年報９・10，見晴台遺跡の50年，見晴台遺跡第29次発掘調査の記録，同第31次発掘調査の記録
名古屋市教育委員会	名古屋城本町御門跡発掘調査概要報告書
名古屋大学考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集116

【三重県　24】	
嬉野町教育委員会	埋蔵文化財調査概要－平成２年度－，中尾垣内遺跡発掘調査報告
鈴鹿市教育委員会	南谷遺跡，上箕田遺跡，伊勢国分寺跡（５次）
津市教育委員会	六大Ｂ遺跡発掘調査報告
松阪市教育委員会	松阪城本丸跡上段発掘調査報告書
三重県埋蔵文化財センター	研究紀要第２号，伊勢志摩をめぐる考古学，’92発掘三重，天白遺跡，三重県埋文センター通信みえ№10～12，三重県埋蔵文化財調査報告87-16・同99-2・同99-3・同101-6・同104・同107・同108-1・同108-5，同109・110埋蔵文化財発掘調査概要Ⅴ，一般国道42号線松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ
【滋賀県　25】	
大津市歴史博物館	博物館だより№14～17
滋賀県立安土城考古博物館	常設展示解説，紀要第１号，湖と海の王，天下布武へ，おおてみち第１～６号，平成４年度年報，近江の縄文時代，滋賀県立安土城考古博物館要覧
滋賀県埋蔵文化財センター	滋賀埋文ニュース第157～167号
守山市教育委員会	守山市文化財調査報告書第42冊・同44冊・同47冊・同48冊
【京都府　26】	
加悦町教育委員会	蛭子山古墳の時代，史跡蛭子山古墳・作山古墳整備事業報告，加悦町の古墳，作山１号墳からのメッセージ，加悦町古墳公園
(財)京都市埋蔵文化財研究所	平安京跡発掘調査概報，栗栖野瓦窯跡発掘調査概報，京都市内遺跡立会調査概報，京都市内遺跡試掘調査概報
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第47～50号
京都大学文学部博物館	紫金山古墳と石山古墳
花園大学考古学研究室	開学120周年記念「キャンパス」を掘る，花園大学構内調査報告Ⅳ
【大阪府　27】	
大阪大学考古学研究室	雪野山古墳Ⅲ
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第９号・同10号・同12～17号，泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要平成４年度，若宮遺跡Ⅱ，湊遺跡，羽倉崎東遺跡，壇波羅遺跡，三軒屋遺跡－92-９区の調査－，三軒屋ダイジョウ寺遺跡，三軒屋遺跡－92-14・92-15区の調査－，三軒屋遺跡
大阪市立博物館	大阪市立博物館報№32
(財)大阪府埋蔵文化財協会	須恵器の始まりをさぐる，軽部池西遺跡Ⅲ，吉井遺跡，陶邑・大庭寺遺跡Ⅲ
大阪府立弥生文化博物館	大阪府立弥生文化博物館研究報告第２集，みちのくの弥生文化，弥生人の見た楽浪文化
貝塚市教育委員会	貝塚市埋蔵文化財調査報告第23集，同25～29集
堺市立埋蔵文化財センター	堺埋蔵文化財だより第６号
堺市教育委員会	堺市文化財調査概要報告第32～41冊，田出井山古墳・堺環濠都市遺跡
吹田市教育委員会	平成４年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
吹田市立博物館	吹田市文化財ニュース№14，海を渡ってきた陶人たち，吹田市立博物館だより№１
高槻市教育委員会	遺跡ガイド９～12

高槻市立埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報平成3年度，塚穴古墳群，新池，嶋上遺跡群17，古曽部遺跡発掘調査概要
豊中市教育委員会	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1992（平成4年度）
(財)枚方市文化財研究調査会	研究紀要第2集，ひらかた文化財だより第15～18号
(財)八尾市文化財調査研究会	(財)八尾市文化財調査研究会報告36～39，平成4年度八尾市埋蔵文化財発掘調査報告(Ⅱ)，平成4年度八尾市文化財調査研究会事業報告
八尾市立歴史民俗資料館	八尾市立歴史民俗資料館報（平成3・4年度），研究紀要第4号
【兵庫県　28】	
芦屋市教育委員会	芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書，芦屋市埋蔵文化財包蔵地分布地図利用の手引き
芦屋市立美術博物館	芦屋の歴史と文化財，古墳と伝承，なりひら第5号，同第7～12号
尼崎市教育委員会	尼崎城跡Ⅰ（第1次発掘調査）
伊丹市教育委員会	伊丹市埋蔵文化財調査概要Ⅱ
加西市教育委員会	殿原廃寺（第4次），小谷遺跡（第4次），玉丘遺跡群Ⅱ，西在田地区遺跡群，鴨谷遺跡，土井ノ内遺跡，三反田遺跡（第2次調査），福居狭間・坂元狭間・三反田・石堂遺跡，山枝・なめら・別府中町遺跡
加東郡教育委員会	加東郡埋蔵文化財報告14
神戸市埋蔵文化財センター	地下に眠る神戸の歴史展Ⅸ，神戸市埋蔵文化財センター常設展示案内，神戸市埋蔵文化財年報昭和62年度，同平成元年度，同平成2年度，雲井遺跡，本山遺跡，平成元・3年度遺跡現地説明会資料
神戸市立博物館	神戸市立博物館研究紀要第7号，同8号，神戸市立博物館年報No.7，同No.8，博物館だよりNo.44～46
龍野市教育委員会	小神芦原の古代ムラ，小神芦原遺跡
中町教育委員会	森本・上島原遺跡，安楽田・女夫岩遺跡，思い出遺跡
播磨町郷土資料館	大地を拓く
姫路市教育委員会	播磨国分寺跡
【奈良県　29】	
桜井市立埋蔵文化財センター	「木棺」－弥生から古墳へ－，埋文センター5年のあゆみ
奈良国立文化財研究所	埋蔵文化財ニュース77，西隆寺発掘調査報告書
奈良市埋蔵文化財調査センター	奈良市埋蔵文化財調査センター紀要
奈良市教育委員会	平城京東市跡推定地の調査Ⅺ，平成4年度奈良市埋蔵文化財調査概要報告書
【和歌山県　30】	
和歌山市教育委員会	木ノ本Ⅲ遺跡第3次発掘調査報告書，車駕之古址古墳発掘調査概報
【鳥取県　31】	
(財)鳥取県教育文化財団	鳥取県教育文化財団調査報告書30～33
鳥取県埋蔵文化財センター	鳥取埋文ニュースNo.36
(財)鳥取市教育福祉振興会	桂見墳墓群Ⅱ，古海古墳群・菖蒲遺跡，西大寺土居遺跡
米子市教育委員会	米子市喜多原第2遺跡発掘調査報告書，大袋丸山遺跡，上福万妻遺跡，夜坂谷遺跡・隠れが谷遺跡，奥谷堀越谷遺跡，吉谷上ノ原山遺跡
(財)米子市教育文化事業団	きんかい創刊号，同第2号，岡成第9号遺跡，目久美遺跡，米子城跡Ⅰ，新山遺跡群・奥陰田遺跡群
【島根県　32】	
島根県教育委員会	石見空港建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書
島根県埋蔵文化財調査センター	一般県道市木井原線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ，同Ⅱ，一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書西地区Ⅰ
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	八雲立つ風土記の丘No.120・121，同No.122・123合併号，同124号

【岡山県　33】	
岡山県立吉備路郷土館	吉備路郷土館だより№16
岡山県教育委員会	岡山県埋蔵文化財報告23
岡山県古代吉備文化財センター	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告81～85，所報吉備№13～15号，岡山県古代吉備文化財センター要覧
岡山県立博物館	研究報告14，なりわいの知恵－とる・つくる・たべる－，岡山県立博物館だより40号，同41号
岡山市教育委員会	小丸山（中山中）遺跡発掘調査報告，史跡岡山城跡保存管理計画
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第9号，同10号，鹿田遺跡3－第5次調査－，岡山大学構内遺跡調査研究年報10
岡山理科大学	岡山理科大学紀要第28号A自然科学，同B人文・社会科学
岡山理科大学蒜山研究所	蒜山研究所研究報告第18号
就実女子大学吉備地方文化研究所	吉備地方文化研究第5号
奥津町教育委員会	土路江遺跡
総社市教育委員会	総社市埋蔵文化財調査年報2，折敷山遺跡・雲上山11号墳，藤原北古墳群，牛飼山古墳群，すりばち池古墳群
高梁市教育委員会	史跡備中松山城跡
中央町教育委員会	塚の平古墳群
津山郷土博物館	津山郷土博物館紀要第5号，美作の白鳳寺院，博物館だより№7～10
備前市教育委員会	東備西播開発有料道路建設事業実施に伴う埋蔵文化財調査，船山遺跡発掘調査報告，亀井戸廃寺確認調査報告，亀井戸発掘調査報告，備前市文化財年報(1)
【広島県　34】	
広島大学考古学研究室	西国街道向原石畳発掘調査報告書，中国地方製鉄遺跡の研究
新市町立歴史民俗資料館	新市町の文化財，相方発むかし行き第1号，同第2号，中世の山城
東広島市教育委員会	東広島市教育委員会文化財調査報告書第13号，同第24・25号，同第27号
広島県教育委員会	いぶき№5～7，広島県中世城館遺跡総合調査報告書第1号，広島県の埋蔵文化財，冠遺跡群Ⅱ
草戸千軒町遺跡調査研究所	草戸千軒町遺発掘調査報告Ⅰ
(財)広島県埋蔵文化財調査センター	ひろしまの遺跡合冊号（第1～50号），同53号～56号，研究輯録Ⅲ，年報Ⅷ，広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第108集～116集
広島県立歴史民俗資料館	ひろしまの青銅器，川に生きる－江の川の漁撈文化－，年報平成3年度，同平成4年度，みよし風土記の丘№46
広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会	広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報Ⅺ
福山市教育委員会	證林山明正寺故地確認調査報告書
府中市教育委員会	備後国府跡－推定地にかかる1990年度調査－，同－推定地にかかる1991年度調査概報－
【山口県　35】	
下関市教育委員会	足河内遺跡・炭釜遺跡
山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡発掘調査研究年報Ⅺ，山口大学埋蔵文化財資料館だより№18～21
【徳島県　36】	
徳島市教育委員会	郡家一里屋遺跡，郡家原遺跡，林・坊城遺跡
【香川県　37】	
瀬戸内海歴史民俗資料館	瀬戸内海歴史民俗資料館紀要Ⅱ抜刷，同Ⅲ抜刷，同Ⅳ抜刷，同Ⅴ抜刷，同Ⅵ抜刷，瀬戸内地方出土土錘調査報告書（Ⅰ），同（Ⅱ）
高松市教育委員会	高松市埋蔵文化財調査報告第20集～22集

【愛媛県　38】	
今治市教育委員会	今治市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ
愛媛大学考古学研究室	江口貝塚，江口貝塚Ⅰ
松山市教育委員会	松山市埋蔵文化財調査報告書第31～37集，松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ
【福岡県　40】	
九州大学埋蔵文化財調査室	九州大学筑紫地区遺跡群第一冊，同第二冊
九州歴史資料館	九州歴史資料館年報－平成４年度－
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財調査報告書第287集，同第317～355集
福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報第12号
【佐賀県　41】	
佐賀県教育委員会	朝日北遺跡
佐賀県立博物館・美術館	佐賀県立博物館・美術館報No.99，同No.101～103
【熊本県　43】	
熊本県立装飾古墳館	弥生人の祈り
【大分県　44】	
大分県教育委員会	大分県の文化財，埋蔵文化財年報１，大分県遺跡地図
佐伯市教育委員会	栂牟礼城址と関連遺跡発掘調査概報Ⅳ
別府大学付属博物館	博物館だよりNo.39，同No.40
【宮崎県　45】	
宮崎県総合博物館　埋蔵文化財センター	宮崎の遺跡1982－1991
沖縄市立郷土博物館	室川貝塚
【その他・個人】	
(株)新人物往来社	天皇と日本の起源から考える
日本通信教育連盟　生涯学習局	日本古代史の謎
雄山閣出版(株)	季刊考古学No.43号
井上秀二	井上雄風作品集
山本慶一	私たちの考古学第１～５巻，考古学研究第６～10巻，考古学研究43・49・50・52～58・60～66・68・69・75・116～156号，吉備考古第19・42～63・67・71・73・78～80・85号，古代吉備第１～６集，日本の美術第19・42・57・66・76・88・125・160・188・213～215号，古代史発掘第１～10巻，季刊考古学創刊号・第３・４・８・11・13号，倉敷考古館研究集報第１～６・８・11・13号，倉敷考古館－解説と周辺の歴史－，日本の旧石器文化１～５，日本の古代遺跡８・11・23，考古学ライブラリー47・60，国民の歴史１・２，日本考古学講座１・２・４，世界の大遺跡１・11，日本古代遺跡の研究文献編上・下・日本考古学人類学史上・下巻，NHKブックス370・420・421，月刊考古学ジャーナルNo.57・58，図説検証原像日本１・５，日本の遺跡発掘物語１・10，塙選書24・44，いにしえの讃岐Ⅰ・Ⅲ，よみがえる中世１・２・６，図録石器の基礎知識Ⅰ・Ⅲ，古代史復元１・４，日本文化の歴史第１・２巻，瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報Ⅲ・Ⅶ，瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ，古代史発掘1978～82年新遺跡カタログ，新古代史発掘1983～87年新遺跡カタログ，古代史発掘1988～90年新遺跡カタログ，日本旧石器時代の考古学，縄文時代の考古学，弥生時代の考古学，古墳時代の考古学，月刊文化財発掘出土情報，旧石器考古学，論集日本文化の起源，日本考古学概説，先史時代Ⅰ無土器文化，新版考古学講座３先史時代，岡山県の考古学，美術文化シリーズ（藤原宮，登呂遺跡，是川遺跡，井戸尻遺跡，金鈴塚・加曽利貝塚，夏島貝塚），荒神谷の謎に挑む，日本の歴史１，発掘－奈良－，岡山県津島遺跡調査概報，空から見た古墳，長野県の旧石器，日本の旧石器展，一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅲ，日本のあけぼの最古のハンター，縄文時代の日本，日本塩業大系史料編考古，西日本古代山城の研究，岩波講座日本歴史Ⅰ，日本の歴史文庫１，日本

歴史全集１，日本旧石器人の探求，日本史誕生，写真史料現代考古学１，日本の誕生，古代の日本４，図説古代の日本１，図説日本文化の歴史１，図説日本文化史大系１，図説中国の歴史１，日本と世界の歴史１，宗像沖ノ島，先史時代の瀬戸内海，古代の讃岐，山陽の古代遺跡，吉備考古点描，月の輪教室，吉備古代史の基礎的研究，吉備の考古学，応永窯と海揚り古備前，岡山県の考古学，岡山県重要文化財図録，恩原遺跡，富田川河床遺跡発掘調査報告，総社市随庵古墳，伊部南大窯址発掘資料，長沙馬王堆一号漢墓発掘簡報，草戸千軒町遺跡968年度発掘調査概要，草戸千軒町遺跡969年度発掘調査概要，草戸千軒町遺跡第９・10次発掘調査概要，草戸千軒，帝釈峡，開館記念企画展－瀬戸内の砂－，上三谷古墳群出土資料展Ⅰ・Ⅱ，あしたかやまの旧石器，石器をうみだした山二上山，一乗谷，ハンドブック一乗谷，石の塊一乗谷の笏谷石，一乗谷のくらしと木，一乗谷と備前焼，朝倉の遺宝，愛媛県立歴史民俗資料館，古代遺跡発掘の脊椎動物遺体，斐川町・荒神谷出土銅剣358本銅鐸６個銅矛16本の謎に迫る，和同開珎，女王卑弥呼と日本の黎明，古鏡その謎と源をさぐる，古代日本史を解く銅鐸の謎，座談会現代の考古学，奴国展－稲と青銅の弥生展－，研究史金印，日本古代史の謎，掘り出された江戸時代，遺物が語る古代史，日本製塩技術史の研究，墓盗人と贋物づくり，日本人の原像，探訪先土器の遺跡，日本の発掘，技術の誕生，“岩宿”の発見幻の旧石器を求めて，赤城山麓の旧石器，旧石器の狩人，日本先土器時代の研究，石器時代の日本，先史発掘入門，考古学の先駆者たち，野外考古学，日本人の骨，栄光の歴史とロマンをさぐる，石造遺跡の謎を追って，企画展示科学の目で見る文化財，斑鳩藤の木古墳概報，発掘登呂の碑，考古学点描，水底にさぐる歴史と文化，考古学とは何か，古墳の発掘，日本の古墳墓，シンポジウム高松塚壁画古墳，見えてまた古代史の謎，平城京時代，古代・中世鋸の復元－法隆寺伝来鋸・伊勢原出土鋸－，埋もれていた奈良の都平城京，飛鳥京藤原京考証・日本考古図録，京都帝国大学文学部考古学研究報告第５冊，むかしのすがた児島名所記，津田永忠人と事績，大坂城400年，シンポジウム中世の瀬戸内（上），下津井砲台場の研究，児島市年表，安芸国分寺跡，伯母野山弥生遺跡，THE ARCHAEOLOGICAL REVIEW，御着城跡発掘調査概報，月刊考古学ジャーナル５，八ヶ岳山麓の遺跡群，全国遺跡地図（岡山県），大廻小廻山遺跡発掘調査報告，多賀城と古代日本，鬼ノ城，日本の古窯，池田忠雄墓所調査報告書，沖須賀遺跡，倉敷市（児島）城遺跡発掘調査報告，明石城跡Ⅱ，清外寺跡・梶岡城跡，明石城，大坂城天下一の名城，大坂の古城と武将，特別史跡大坂城跡，群馬県岩宿発見の石器文化，神と墓の考古学，古墳出土の鋸について，松ヶ迫遺跡群出土の流紋岩製石器について，東広島市西条町採集の石器，大阪城誌上・中・下，大坂城の諸研究，金沢城郭史料，備前の城，倉敷考古館研究集報第７～９号，同第11～12号，王墓山遺跡群，金蔵山古墳，大坂城，ふるさと散歩，卿内村文化財解説，瀬戸内海研究第四・五合併号，同第六号，大坂城への招待，公式ガイド大坂城櫓・蔵，大坂城今昔，沖ノ島，百間川遺跡第一次調査概報，大坂城と大阪の町，吉備の古代王国，古代吉備王国の謎，古代の国々５，吉備古代史の未知を解く，備中の白色五輪塔，海の生産用具資料集１・２・３，同追加資料，摂営秘録（大坂城の記録），特別史跡大坂城跡，大坂城天守閣紀要第11・12号，天守閣復興五十周年記念大坂城展，徳川時代大坂城外郭関連石垣遺構調査報告，篠山城石垣符号の研究，大坂城古絵図展，金城見聞録，日本古代文化，岡山理科大学考古学部大学祭特集号，古代インカの土器と織物，須恵器から備前焼へ，大飛島遺跡，津山郷土館報第１集，古代吉備の鉄，謎のオホーツク海文化，野原遺跡（風早Ａ地点）発掘調査報告，講談社現代新書108・404，考古学選書４・33，考古学シリーズ１・３・11

付 編

埋蔵文化財センター情報誌

「ほるほる」

埋蔵文化財センター情報誌

ほるほる

Vol. 1

１９９３年８月20日
編集・発行
倉敷埋蔵文化財センター
－１号－
夏休み親子考古学教室
どかどか火おこし号

● ごあいさつ

みなさんようこそ。

この施設は倉敷埋蔵文化財センターといいます。ここでは、倉敷市内の埋蔵文化財(?の1) を未来へ残すため大切に守っていく仕事をしています。

『ほるほる』は、この埋蔵文化財センターのこれからの予定、大昔についての話、発掘調査でわかったことなどの情報をみなさんにお知らせするためにつくられました。むつかしい言葉をなるべく使わずに、誰にでも理解でき、大昔が身近に感じられるようなニュースをめざします。みなさんが、楽しく大昔を知るための案内役になれればよいと思っています。

また、次号からはみなさんからのご意見や感想などものせていきたいと思っています。みなさんといっしょにつくっていくニュースにしたいと思っています。みなさんのご意見・感想をお待ちしています。

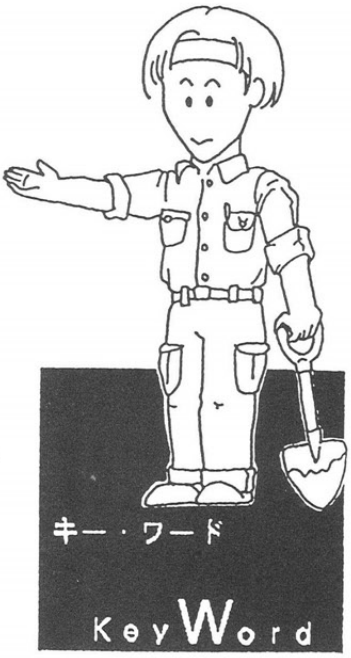
それでは、みなさん『ほるほる』を読み、『ほるほる』に参加してください。よろしくお願いします。

倉敷埋蔵文化財センター
館　長　三　宅　正　廣

◎　?の1　埋蔵文化財　とはいったい何なの

地面の下に埋まっている人類が使い、のこしたもののこと。たとえば土器、石器などの道具やアクセサリーなど。また、家、城、道路、田畑なども地面の下に埋まっていれば埋蔵文化財です。食べ物のかすや洞窟に描かれた壁画なども埋蔵文化財にふくまれます。

こうした埋蔵文化財は、大昔のことを調べるためのとてもよい手がかりになります。みんなの貴重なたからものですから大切にしましょう。



ぼくたちは昔を食べた
夏休み親子考古学教室の記録

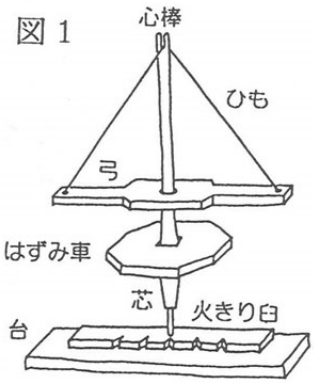
とき　7月28日～29日
ところ　ライフパーク倉敷・倉敷埋蔵文化財センター（28日）
　　児島・由加山　少年自然の家　　（29日）

昔の人は、どうやってご飯をつくったのでしょうか。
火は、どうやっておこし、どんな器を使ってお米をたいたのでしょうか。
皆さんは知っていますか？
今回、埋蔵文化財センターがおこなった夏休み親子考古学教室では、こうした昔の食卓をみなさんに体験していただきました。
日程は、二日間。７月28日には昔の火おこしの道具作りに挑戦し、29日には土器を使ったご飯たきと味噌汁作りを屋外で行いました。

28日♪

この日は、13時開講。館長の開講の挨拶の後、まず学芸員による昔の火おこしの説明からはじまりました。復元された道具を使い８種類の火おこしの方法が実演されました。そして、今回みんなが作る火おこしの道具『舞いぎり』（図１）の作り方が説明されました。
クラフト室からのこぎりの音がきこえます。ギコギコ、ギコ。みんな一生懸命木材を切りました。また、ふだんあんまり使わない小刀を持って木をけずったりもしました。
どかどか、とんとん。にぎやかに、みんなで工作がんばりました。
だいたい１時間半後、『舞いぎり』は完成。
さて、それから試運転。これもちょっと力がいるぞ。
力をこめて、ぶんぶんと『舞いぎり』をまわします（写真１）。
どの『舞いぎり』も成功でした。みんな初めてだったけどちゃんと火がつきました。

図１



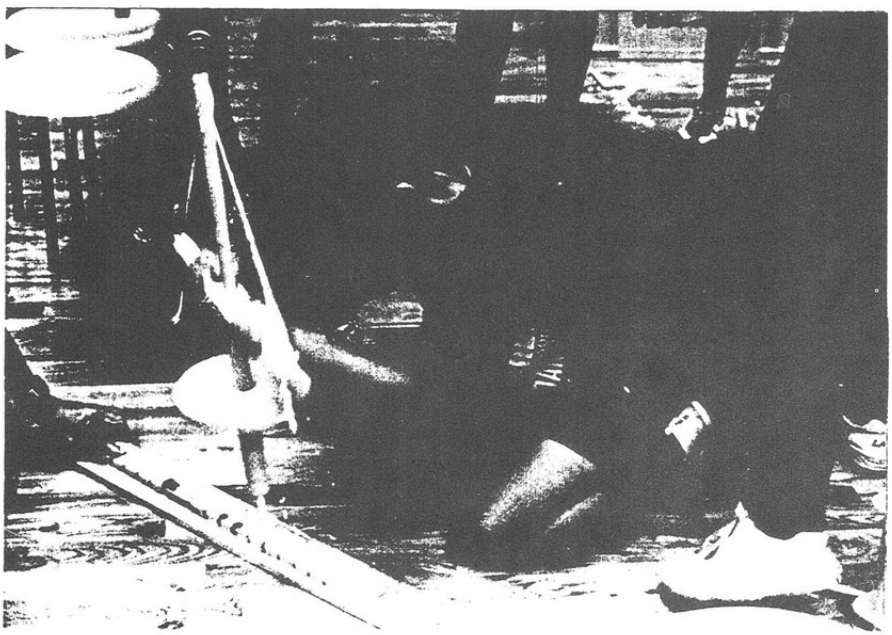


写真１　つけ！　つけ！

29日 ♪

翌日。今年は雨が続くので、ちょっと心配だったけど、この日はとても良く晴れました。

今日は、土器を使った料理の日。10時半に由加山に集合しました。

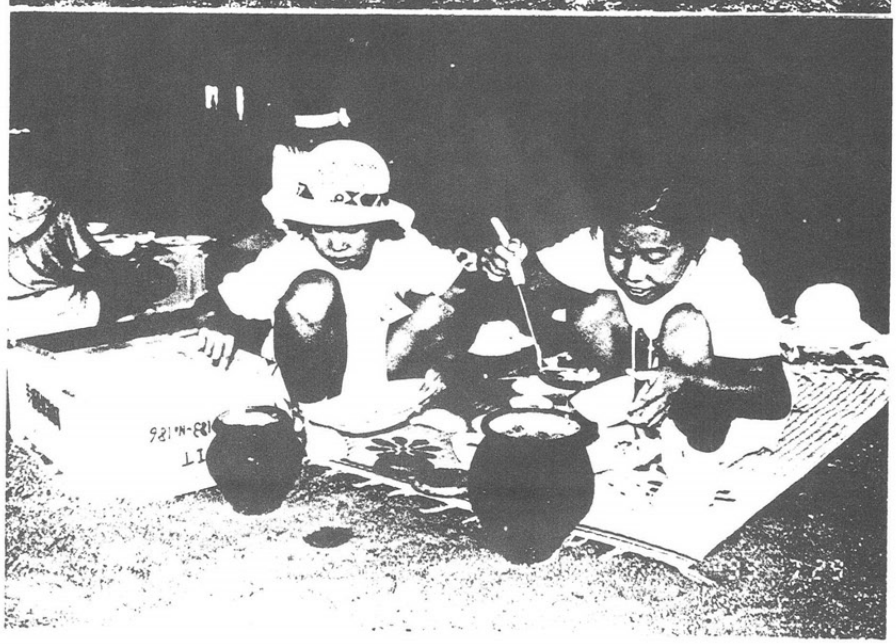
まず、昨日作った『舞いぎり』で火をおこしました。小さい火種をしっかりしたたき火にするのは一苦労。煙ですこしむせたけど、どうにか火がつきました。

古代食のメニューは、赤米をまぜたご飯、豚肉とネギとサトイモの入ったおみそ汁、それに焼いたシシャモでした。ご飯とみそ汁は土器を使ってたきました。

きつい日差しで暑かったけど、たき火を続けて30分。ちょっとこげたりしたけれど、美味しいご飯がたけました。

たった2日の間だったけど、みんなで古代人の気分が味わえました。

ご飯まだ？



おいしそ～

これはなにかな？　－展示物紹介－　1

展示室に入るとすぐにある人形は、何をしているのでしょう。

答えは、発掘調査です。

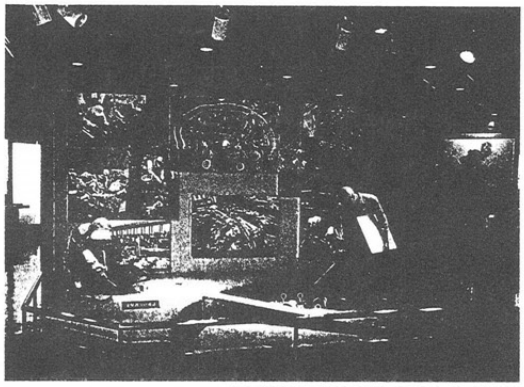
このジオラマは、竪穴住居を発掘調査している様子を復元しています。丸い落ち込みの中が、竪穴住居の中になります。その中にある小さな丸い穴が柱がたててあった穴です。

また、長細い土手がありますね。あれは、住居が埋まったときの土の様子を見るために残してある土手です。

しゃがんでいる女の人は、埋まっている土器を掘り出しています。

立っている男の人は、土器の掘り出された様子を図面に描いています。

埋蔵文化財センターの学芸員は、暑い夏の日にも、寒い冬の日にも調査があると屋外に出て、ジオラマのようなことをしているのです。



▲発掘調査現場のジオラマ

これからの埋蔵文化財センターの予定

8月22日から、夏休み親子考古学教室の写真展が行われれます。

また、この11月には、考古学入門講座が予定されています。

これは、みなさんに参加していただき、考古学の考え方や技術、遺跡の見方などを学んでいただく講座です。現在、学芸員が準備しているところです。

くわしいことが決まり次第、市の広報などでお知らせします。

みなさんふるってご参加ください。

アンケートに協力してください

展示室の学習コーナーにアンケート用紙が用意してあります。埋蔵文化財センターをもっと良くしていくために、皆さんの意見をお願いします。

どうぞ、ご協力ください。

（でも、いたずら書きはしないでくださいね。）

◎　**次号予告**　『ほるほる』2号は9月刊行予定です。

みなさんに書いていただいたアンケートの結果報告を予定しています。

埋蔵文化財センター情報誌

ほるほる
Vol.1

１９９３年９月25日
編集・発行
倉敷埋蔵文化財センター
－２号－
雨あめ降るな
やっと秋だ号

記事の１　埋蔵文化財センターの仕事

埋蔵文化財センターって何するところ？

昔からたくさんの人が住んでいた倉敷には、いままでに知られているだけでも、１０００以上の遺跡があります。

埋蔵文化財センターは、これらの遺跡をまもり未来にのこすための仕事をしています。たとえば建物や道の工事をする場所に遺跡があるかどうかをしらべ、遺跡があるときには工事の場所をかえてもらったり、どうしても工事場所をかえられないときには、その遺跡を発掘してくわしくしらべて記録する仕事があります。

発掘で出てきた土器などは、きれいにあらって整理してやらないといけません。どろだらけのままでは研究できないからです。

また、発掘でわかったことをみなさんに知らせる仕事もしています。展示や講座、報告書という本を作る事などは、そのための仕事です。

さらに、発掘で見つかった土器などをしまっておくのも埋蔵文化財センターの大切な仕事です。コンテナ１３００箱ほどの遺物が収蔵庫にしまわれています。

仕事を
難しい言葉でいうと・　・？
こうなるぞ
⇩

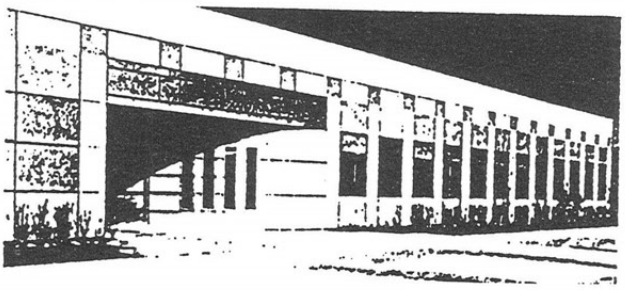
⇨開発協議（かいはつきょうぎ）

⇨発掘調査（はっくつちょうさ）

⇨整理作業（せいり　さぎょう）
⇨研究

⇨報告書づくり（ほうこくしょ）
⇨講座・展示

⇨収蔵（しゅうぞう）



記事の２

アンケートは

楽しく読ませていただいた の第１回

≡はじめに≡

まずはお礼をもうしあげます。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

非常に有意義なご意見、ありがたいおほめの言葉やはげましの言葉、それになかなか鋭いご指摘など、よろこんで読ませていただきました。みなさんのご意見を参考にこれからも埋蔵文化財センターをよりよくするため、がんばっていきたいとおもいます。本当にありがとうございました。

≡結果報告≡

さて、アンケートの集計結果です。

質問　倉敷埋蔵文化財センターをなんで知りましたか

小学生のみなさん、おとなのみなさんあわせて92人の方がこたえてくださいました。

回答

パンフレット	**４人**	**ともだちにきいて**	**11人**
ライフパーク倉敷にきて	**46人**	**学校**	**11人**
ＴＶ	**５人**	**その他**	**15人**

うーむ。ライフパークに来るまで知らなかった人がおおいですねぇ。埋蔵文化財センターは、あまりみなさんに知られていないようです。

みなさん、おともだちに埋蔵文化財センターを宣伝(せんでん)してください。おねがいします。

質問　社会科や歴史は好きですか

これは小学生のみなさんだけへの質問でした。59人のみなさんがこたえてくださいました。

回答

好き	**42人**	**きらい**	**14人**	**どちらともいえない**	**３人**

歴史の好きな人が多かったので安心しました。

歴史の好きな人は、もっと好きになってください。きらいな人、どちらともいえない人も、また埋蔵文化財センターへ遊びに来てください。

もしかしたら、歴史が好きになれるかもしれません。

質問　倉敷埋蔵文化財センターでおもしろかったものは？

これは小学生のみなさんへの質問でした。 102人のみなさんがこたえてくださいました。

回答

土器パズル　41人　竪穴住居　18人　発掘現場の模型　10人
博物館・埋蔵文化財センターガイドのコンピューター　16人
ケースの中の展示品　14人
その他　（全部　2人　ＶＴＲ　1人）

土器パズルがだんぜん一位。やっぱり、みんな一番最初に土器パズルをさわりに行ってるもんねぇ。

おなじような質問にたいしておとなの方は、竪穴住居の復元模型が興味深いという回答が多かったです。また、貝塚の断面や遺物整理の過程が見られる点をあげておられる方もおられました。

質問　土器の水洗い・整理・接合などを自分でもやってみたいですか。

これは小学生のみなさんへだけの質問でした。60人のみなさんがこたえてくださいました。

回答

やってみたい　50人　やりたくない　9人
どちらでもない　1人

土器の整理作業をしたいという人が多かったのはうれしかったです。

なるべくはやく、みなさんに土器をさわってもらえるチャンスをつくりたいと思います。

でも、土器パズルよりもずーっと難しいぞ。

今回のアンケートで、みなさんがどのようなことを考えて埋蔵文化財センターを見て下さったか、少しわかったような気がします。これからもアンケートは続けますので、また協力してやってください。

今回紹介させていただいた選択式の質問以外に自由に書いていただくスペースには、もっとたくさんの感想がありました。次号ではそれらのご紹介をさせていただきます。

それから・・・。

アンケート用紙に落書きしないでください。

エッチなのとか、人を馬鹿にしたのとか・・・。

おこってるんだよ、おじさんは。

これはなにかな？　　－展示物紹介－　2

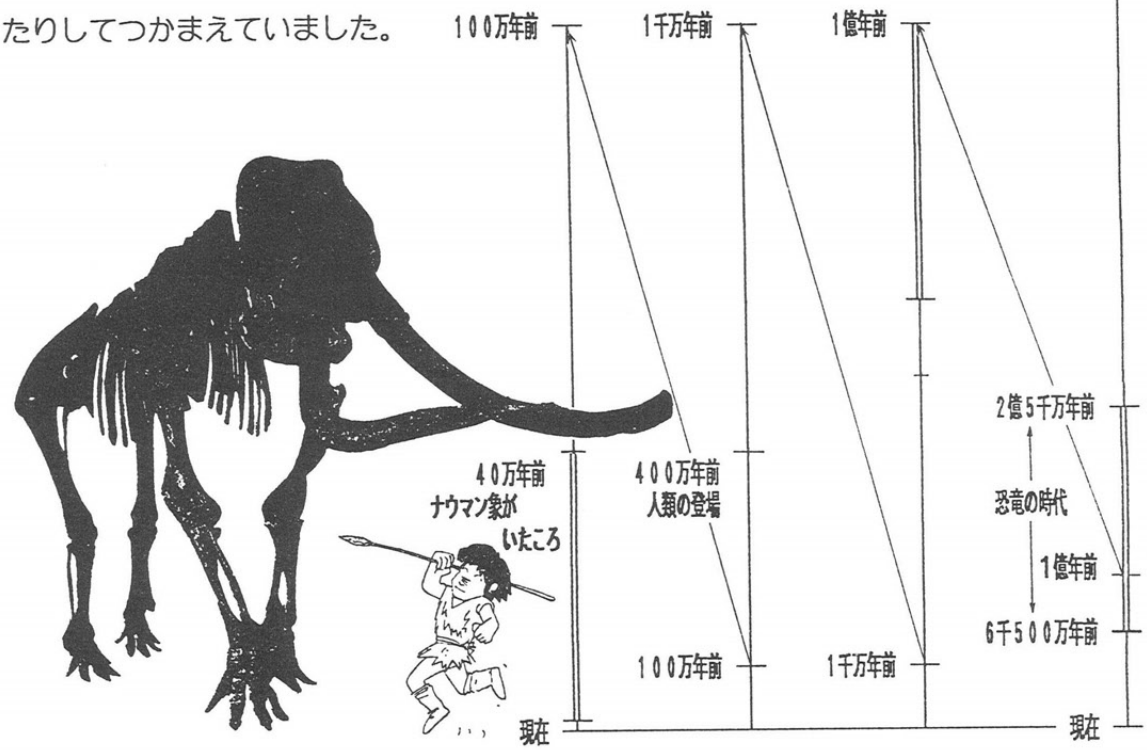
ナウマン象の化石

土器パズルのすぐそばの展示ケースの中に化石がありますね。

これはナウマン象という象の化石です。ナウマン象は、更新世（今から40万～２万年昔）に中国大陸から日本のあたりにいた象の仲間です。その体長は 3.5mほどで、体高は 2.5mほどでした。植物の実を食べるので、森や草原にくらしていました。

この化石は、瀬戸内海の海の底から引き上げられたものです。でも、この象は海でおぼれて死んだわけではありません。では、どうして海の底から見つかるのでしょうか。これは、象たちが生きていたころには、瀬戸内海のあるあたりが陸地だったためです。

今から２万年ほど昔（旧石器時代）の人たちは、この象を食べていました。狩人たちは、象をおいかけて沼に落として動けなくしたり、ガケから落としたりしてつかまえていました。



みなさんの疑問におこたえする

おしえて！おしえて！

このコーナーでは、考古学の用語でみなさんが聞きなれないようなむつかしい言葉の意味などを解説したり、みなさんがアンケートや質問用紙で質問された疑問におこたえしたりします。古代のことで知りたいこと、わからないことがあったら、学習コーナーにおいてあるアンケートか質問用紙に書いてください。なるべくすべての疑問におこたえしていきます。

今回は、アンケートで質問して下さったＹ．Ｆ．さん（11才）におこたえします。

◎土器を作ることを思いついたのはだれか

● こたえは、だれか は わかりません です。ごめんなさい。

土器がつくられだした大昔には、まだ文字がありませんでした。ですから、その人の名前は書き残されていません。

でも、おおぜいの考古学者が、もっとも古い土器をさがして発掘調査をしています。その結果、日本では最も古い土器として、今から約１万２千年前の時代（縄文時代と呼ばれる時代のはじめごろ）のものがあちこちでみつかっています。

世界中のいろいろなところで、土器づくりがいつごろからはじめられたかがわかりはじめています。たとえば、シベリア大陸のアムール河下流域のガーシャ遺跡からも約１万２千年前の土器がみつかっています。

日本からシベリアにかけての東アジア地区で土器がつくられだしたのは世界でももっとも古いほうになります。もしかしたら、一番はじめに土器をつくったのは、日本のあたりの人だったかもしれません。

Ｙ．Ｆ．さんも考古学を研究すれば、もっとも古い土器をつくったのがどこの人だったのか発見できるかもしれませんよ。

おしらせ

考古学入門講座について

「ほるほる」1号でもすこしふれましたが、埋蔵文化財センターでは、この11月に「考古学入門講座」をおこないます。

考古学というと、字を見ただけでむつかしそうでちょっととっつきにくいのではないでしょうか。また、どうやって勉強したらいいのだろう？　新聞に出ていたむつかしい用語の意味はなにで調べたらいいのだろう？　そういった疑問をおもちの人もたくさんいらっしゃるでしょう。

ですから、この講座では一般の方を対象に、むつかしい考古学の言葉をなるべくつかわず、考古学についてまったく予備知識がなくても考古学の初歩を理解していただけるようなお話をさせていただこうと思っています。

考古学の世界と古代の知恵にふれてみたいみなさん、どうかどしどし参加してください。

第1回　11月10日（水）　13：30～15：00　会場　ライフパーク倉敷第1会議室

「考古学の考え方」

考古学の研究方法とその考え方をゲームをまじえてお話します。

第2回　11月17日（水）　13：30～15：00　会場　倉敷埋蔵文化財センター

「遺物の見方」

遺跡から出た土器のつくられかた、土器の整理作業を実際に「もの」を手にとって学習していただきます。

第3回　11月24日（水）　未　定　会場　各所の遺跡

「遺跡の見方」

吉備路の古墳をめぐりながら、古墳の見方についてお話します。

対　象　一般市民（ただし3回とも参加可能の方に限ります。）

定　員　30人（先着順）

参加料　1人 300円

申込み　10月16日（土）から受付　10時～16時まで

電話申込み不可　参加料を持参し直接当センターへ

問い合わせ　倉敷埋蔵文化財センター　☎ 086-454-0600

埋蔵文化財センター情報誌

ほるほる
Vol. 1

１９９３年11月25日
編集・発行
倉敷埋蔵文化財センター
－3号－
10月出なくてごめんなさい
10・11月合併なのだ号

埋蔵文化財の 調査は 考古学という 学問にもとづいておこなわれます

では 考古学って どんなことするの？

むかしのことをしらべるのには、どうしたらよいでしょう。

おとしよりに聞きましょうか？

古文書を読みましょうか？

でも、その頃のことを知っている人がいない時代のことや、文字がなかった時代のことをしらべるのには、このふたつの方法は役にたちません。

では、どうしたらよいでしょう。

そんなときに考古学が力を発揮します。

考古学は、文字のない時代のことや、文字に書き残されていないことをしらべます。文字ではなく、さまざまな「もの」から歴史をしらべます。

考古学では、昔のひとの残したすべてのものが研究されます。

たとえば、土器や石器の作り方、埴輪の移り変わり、古墳の石室におさめられた品物の種類、昔の村のあとの様子、昔いた動物の種類など。ひとびとの生活とそれをとりまくすべてのことをしらべます。

ですから考古学者や学芸員には、いろいろな知識や技術が必要になります。

考古学の知識はもちろん。動植物の知識や地理学の知識など。測量の技術に写真のとりかた。発掘調査は肉体労働です。拓本をとったり、図面をかいたりもします。発掘の費用の計算だって必要です。

そうした知識や技術をもって、いろいろと調べて考えた結果、むかしのさまざまなことがすこしづつわかってくるのです。

アンケートは

楽しく読ませていただいたのだ　の第２回

≡結果報告のつづき≡

さて今回は、みなさんに書いていただいた感想を紹介します。

では、まず。

質問　埋蔵文化財センターで良かった点、おもしろかった点

これは大人のみなさんへの質問でした。いろいろな点をあげてくださいました。

回答　一番多かったのは、　**竪穴住居の復元。**　これは、非常に評判がよく、あとでもまたふれますが、中に入りたいというかたも多かったです。

二番目は、　**本物の遺物にさわれる**　こと。

三番目は、　**土器パズル**　。

そのほかに、　**整理作業の様子が見えること**　や、　**展示がよくまとまっている**　、**静かでおちついて見られる**　、といったところもほめていただきました。

こちらが、ここを見てほしいとねらっていたところの評判がよかったので、非常にうれしかったです。さらにこれらのポイントを充実させていきたいと思います。たとえば竪穴住居の中に展示する復元品を増やす、土器パズルの新型をつくる、などを考えています。

質問　埋蔵文化財センターでなおしてほしい点、希望すること。

これは大人のみなさんへの質問でした。

回答　一番多かったのは、　**展示品をもっとふやしてほしい**　という意見でした。

これも、うれしい意見です。みなさんが、もっといろいろな資料を見たいといってくださるのは、努力がむくわれた気がしてうれしいことです。やる気がおきます。

二番目は、　**竪穴住居に入りたい、**　という希望でした。

もうしわけないのですが、これは、ちょっと無理なのです。というのは、竪穴住居は展示のためだけに計画されたため、人をいれられる設計になっていないのです。ですから、人がたくさんはいると床が壊れてしまいます。どうぞ、ご理解をいただきますようお願いいたします。

三番目は、　**ビデオを見るイスを増やしてほしい、**　という希望でした。

これは、現在検討中です。できるだけはやく、イスをふやしたいと思っています。

そのほか、　**展示室を明るくしてほしい、**　という意見もありました。

これも、改良します。照明をふやして明るくすることになっています。

また、当時のひとの服装などを知りたいので竪穴住居の中に当時の人の人形を置いてほしいという意見もありました。

これは、展示がやすっぽくなるので、置きません。そう展示計画のときから相談で決めていました。そのかわり、当時の人の服装などの推定イラストをなんらかの形でみなさんに見ていただけるよう工夫をする予定です。

希望したら説明案内はしてもらえるのか という質問がありました。説明案内させていただきます。しかし、学芸員が発掘などでみんな外で仕事している時は、説明できる者がおりませんのでご案内できません。この点はご理解いただきたいと思います。できれば、案内の希望がある場合は、はやめにご連絡いただきたいと思います。できるかぎり、ご案内できるようにさせていただきます。

質問　なおしたらよいと思うこと。

これは小学生のみなさんへの質問でした。

回答　一番多かったのは、こちらもやはり **竪穴住居に入りたい** という意見でした。

二番目に多かったのは、 **展示解説の本がほしい** という意見でした。

展示解説の本は来年には作ります。楽しい本をつくろうと、いまから計画してます。

よいアイデアがあったら、教えてください。

また、 **ゲーム** や **クイズ** をつくってほしいという意見がありました。

これは、つくります。こーゆーのは大好きです。

とりあえずクイズは、この『ほるほる』に今回からのせていきます。

それから、 **ビデオでマンガ的な説明をながしては** というアイデアもありました。

いいなぁー。いいアイデアだなぁ。

できるかどうかわかりませんが、できるようにこれからがんばってみます。

質問　古代の人と聞いて思うことは？

これは小学生のみなさんへの質問でした。

回答　一番多かったのは、 **狩をしていた** というイメージでした。

そのほかに **原始人** とか **やっぱり昔の人** （そりゃま、そーだ）、 **強い人** （ふむふむ）とか、 **貧しい生活** （そうでもないんだけどなぁ、けっこうグルメな生活してるよ古代人は）、 **サルのような人** （ウッキー！　でもそれは 100万年くらい昔の人だな）、 **服がない** （あるってば）など。いろいろな想像がありました。

なかでも、伊島小学校の和田君の **生活力がありそう** というイメージは、なかなかいいせんいってると思います。お主なかなかできるな。

などといっている間にページが無くなってしまいました。

では、残りは次回。第３回は、面白かった回答・楽しい回答の特集だぁ！

特別記事　ほるほる君の

◎土器パズル攻略法◎

今回は、埋蔵文化財センターに来てくれたみんなに大人気の土器パズルについて、制作担当の埋文こぞうほるほる君　が土器パズルのひみつをこっそり教えてあげるよ！

パズルのもとになった土器は、倉敷市の北東部にある庄地区の現在山陽新幹線が通っている線路の近くからでてきたんだ。この場所には今から2000年ぐらいむかし（弥生時代）に大きな村があったんだ。当時の倉敷の中心部はここだったかもしれないね？

この土器は、弥生時代の終わりごろに作られたもので、土器の種類としては、一般的にはものをためたり、しまっておくための壺（つぼ）というものなんだ。

では、いよいよおまちかね、土器パズル攻略法を公開しよう！

1．まず、土器の形をじっくり見てごらん。土器のくび（上）の部分には、横線のもようが入っているよね。
2．横線のある上の部分からパズルのピースを合わせてみてね。
3．次に、まんなかのあたりにまるく突いたもようがあるから、これが全体にくるっと回るように合わせるんだ。
4．これからが、少しむずかしいよ。
もようが無い部分になっちゃった。どうしよう？
まんなかから下の部分をよく見てごらん。
ほらね、あちこち色がちがっているでしょう。
これは、土器を焼くときに、火が強くあたった部分と弱くあたった部分で色が変わってきてるんだ。この色のちがいをたよりに、同じような色と色を合わせてみよう。
5．ほら、簡単にできあがり。

２分以内にできたらパズルのプロ

ぼくら はどこにいるか の 大年表 1

ぼくらは
この宇宙の歴史の中で
どのあたりにいるのだろう
150億年の時間を
ふりかえる
年表　　または　宇宙カレンダー

「三十五億年を一年におきかえて　一月一日に生命が生まれたとする
　と　人類が地上にあらわれたのは・・・」
「六月ぐらい」
「外れ」
「じゃ八月」
「三月」
「十二月三十一日の夕方だ」　　仲たまき『あるはずのない海』より

この宇宙ができてから 200億年から 150億年たっているといいます。
地球ができてからは、46億年。
地球ができてしばらくして、最初の命が地球に生まれています。
また、最初の人類があらわれてからは 400万年たっています。
わたしたちは、ずいぶん長い時間の流れの果(は)てにあらわれたのです。
そして、よいこともわるいことも、すべてこの 150億年のあいだにあったことです。

でも数字を見ただけでは、それがどれだけ長いかわかりにくいと思います。
わかりやすくするために、頭の中でちょっとした実験をしてみましょう。
150億年を１年におきかえてみるのです。
宇宙の誕生を１月１日として、現在を１２月３１日の大晦日(おおみそか)とします。
すると、最初の人類があらわれたのは
このカレンダーの何月何日のことになるでしょうか。

15000000000 ÷	12 ≒	1250000000	カレンダーの１月が	12.5億年にあたります
15000000000 ÷	365 ≒	4100000	１日が	4100万年にあたります
4100000 ÷	24 ≒	170000	１時間が	170万年にあたります
170000 ÷	60 ≒	28000	１分が	2.8万年にあたります
2800 ÷	60 ≒	475	１秒が	475年にあたります

――― このカレンダーの上では、現実の １ 年は
たったの ０．００２秒にしかなりません
（２０マイクロ秒）

――― 世界で一番長生きだった泉重千代さんは １２０才まで生きました
でも 120年は、０．２５秒
このカレンダーの１日どころか１秒にもなりません

――― ふつうの人のがだいたい70年生きるとすると
それはこのカレンダーではたったの０．１４秒

――― 大晦日の除夜の鐘の鳴るたった １ 秒前
が 西暦1510年頃
このころ日本は 戦国時代 でした

――― 卑弥呼のいた時代
弥生時代をだいたい2000年前とすると
この時代は、 ４．２秒前になります。

――― 倉敷で見つかっている人間がつくった最も古い旧石器が
だいたい２万年前のもの
２万年前 は ４２秒前 になります

このたった４２秒のあいだに
倉敷 は いまの姿になったのです

このたった４２秒のあいだなのに
考古学者が研究しても
わからないこと がたくさんあるのです

さて、次回の『ほるほる』には倉敷市の歴史を中心にした年表
をのせる予定です。

ぼくらはどこにいるかの大年表 1

1/1 — 150億年前
5/1 — 100
9/1 — 50
現在

この世界をつくる原子や分子ができ
星や銀河ができる

9/1 — 50億年前
9/11 — 46 地球ができる
9/30 — 40 地球で一番古い岩石
10/1 — 38
10/9 — 35 最初の生命が生まれる
30
11/1 — 25 大きな大陸ができる
11/15 — 20
12/1 — 18 真核細胞があらわれる
12/6 — 12 動物と植物がわかれる
10 現在

12/6 — 10億年前
12/16 — 6 多細胞生物があらわれる
12/17 — 5.7 生物の種類がばくはつ的にふえる
5
12/18 — 4.4 魚があらわれる
12/21 — 4 動物が陸にあがる
12/22 — 3.6 植物が陸にあがる
12/25 — 2.5 恐竜があらわれる
12/26 — 2 ホニュウ類があらわれる
12/29 — 0.65 絶滅
現在

三葉虫があらわれる

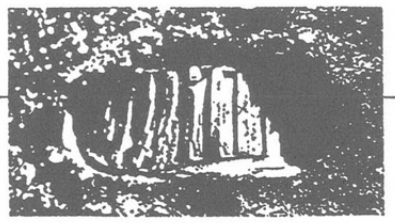
12/31 21:05 — 500万年前
21:40 — 400 人類があらわれる
22:00
300
22:34 — 250 石器がつかわれだす
200
23:00 — 150 人類がはじめて火をつかう
23:07
100
23:42 — 40 ペキン原人があらわれる
23:46 — 50 ネアンデルタール人があらわれる
1/1 00:00 現在

12/31 23:58:12 — 5万年前
4
23:58:45 — 3.5 クロマニヨン人があらわれる
3
23:59 — 2.8
2
23:59:36 — 1.2 土器つくりがはじまる 縄文時代のはじまり
1.1 農耕がはじまる
1/1 00:00:00 現在

12/31 23:59:39 — 1万年前
23:59:43 — 7900 都市ができる
23:59:49 — 5300 文字がつかわれはじめる
23:59:51 — 5000 お金がつかわれはじめる
4500
23:59:55 — 2300 弥生時代のはじまり
23:59:56 — 2000 卑弥呼の時代
23:59:58 — 1000 ルネサンス時代（西洋） 戦国時代（日本）
23:59:59 コンピューターができる 原子爆弾がつかわれる 人類が宇宙へ出る
1/1 00:00:00 現在

人類最古の足あと

人類が月にしるした最初の足あと



原子爆弾のキノコ雲

みんな、しつもんようしで
いろいろ　　しつもんしてくれて　　ありがとう

おしえて！おしえて！

こんかいはいろいろなしつもんにおこたえします

しつもん1　これは池田大樹くんからのしつもんです

「米作りはどこではじまって、どうやって日本につたわったのですか？」

こたえ　米作りがはじまったのは、中国の西南部からヒマラヤのあたりで、いまから7000年以上むかしのことだったといわれています。

日本には、中国から九州へ、今から2300～2400年前につたわったとかんがえられています。このころは、縄文時代という時代のおわりごろで、米作りがつたわった後の時代は弥生時代とよびます。

しつもん2　これは池田大樹くん、Y．F．さんなどおおくの人たちからのしつもんです。

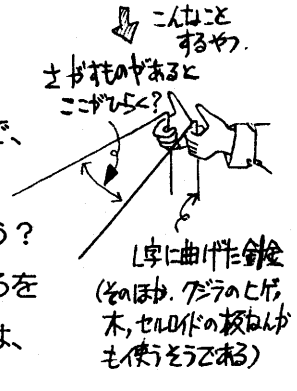
「人間はだいたいいつごろ生まれたのですか。」

こたえ　もっとも古い人類は、アフリカでだいたい 400万年前に生まれたと言われています。これがだいたいどれくらい昔かは、大年表を見てください。アフリカにあるエチオピアという国のハダール地方で化石がみつかっています。この人間の先祖には、アウストラロピテクス・アファレンシスという名前がつけられています。

しつもん3　これは時信翔くんからのしつもんです

「発掘というのは、ただがむしゃらに穴をほっているんですか？
それともダウジングみたいなものを先にしてほるんですか？」
（ダウジングというのは棒を使って地下にあるものをさがす占いです）

こたえ　ただがむしゃらにほるのではありません。
でも、ダウジングはしません。
ダウジングは科学的に正しいかどうかわからないので、
そういう不確かなことはやりません。
では、どうして遺跡のあるところがわかるのでしょう？
それは、土器・貝がらなどが地面に落ちているところをさがすことなどでわかるのです。また、発掘のまえには、



ためし堀りをして遺跡があるかないかをたしかめます。

しつもん4　これは「みなこさん」からのしつもんです。
化石はみつかりますか？

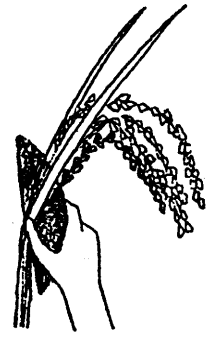
こたえ　これはちょっと残念ですけど、考古学では恐竜の化石はさがしません。
研究している時代がちがうからです。恐竜がいた時代と人間があらわれた時代がどれくらいはなれているかは、大年表をみてください。
また、人間の化石もなかなか日本ではみつかりません。

しつもん5　これは西谷伸也くんからのしつもんです。
「つぼなどの昔のものはもろくなっているとおもうのに、どうしてきちんとした形で博物館などにかざれるのですか？」

こたえ　たしかに土の中で長い時間がたつと、土器はもろくなってしまいます。
そんなもろい土器は、薬につけてかためます。この薬はバインダー液といいます。

しつもん6　これは、村上のぞみさんからのしつもんです
「むかしの人は、いねかりはどうしていたの？」

こたえ　たとえば弥生時代の人たちは、横の図のように石で　⇨
つくった道具をつかっていねかりをしていました。
この道具は石包丁という道具で、いねの穂だけをかっていました。



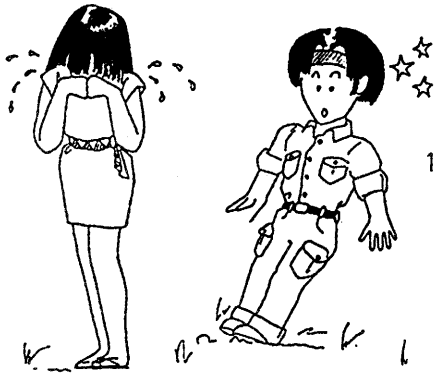
しつもん7　これは戸田しげひさくんからのしつもんです。
「なんで貝塚があるの？」

こたえ　貝塚というのは、昔の人が食べた貝のカラや動物のホネをすてたところです。でも、展示室の壁のはぎ取りのようなあつさになるほどの量をいちどにすてたわけではありません。ながい間にすこしずつすてられたものがたまって、あんなにたくさんになったのです。

今回は以上の７つのしつもんにお答えしました。
まだまだ、知りたいことやわからないことはたくさんあるとおもいます。
そうした疑問は、どんどん「質問カード」に書いて下さい。
できるだけみんなのしつもんにお答えしていきます。

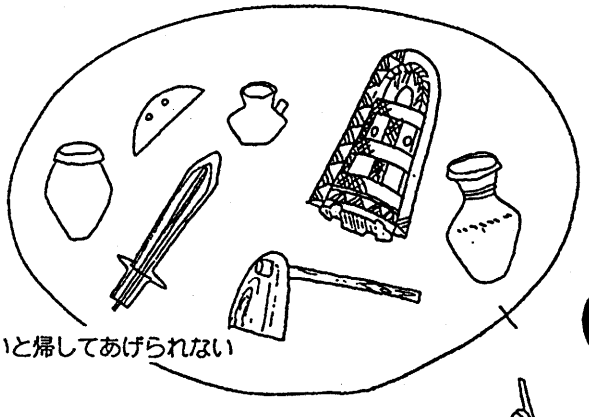
ほるほるくいず 第1回

さて、今回からクイズがはじまる。
れんぞく5回の予定だ。
タイトルは『ほるほる君のT. B. 大暴走！』。
さあ、ほるほる君の冒険がはじまるゾ！



1　ある日、ほるほる君が　倉敷市庄地区の上東遺跡を歩いていると
みなれない服の女の子が　ないていました

2　女の子のなまえは「このみ」ちゃん
どこかの時代から　1993年にまよいこんでしまったらしい
ほるほる君は　このみちゃんをむかしに帰してあげることにした



3　でも、その時代がいつなのかわからないと帰してあげられない
さあ、ここで問題です
このみちゃんの時代にあったものをヒントにして
このみちゃんのもといた時代をかんがえよう

こたえは　？　　1 旧石器時代（きゅうせっきじだい）
2 古墳時代　（こふんじだい）
3 弥生時代　（やよいじだい）

さあ、何番でしょう？　　こたえは次号

□これはなにかな　第３回□

――――博物館・埋蔵文化財センターガイドのコンピューター

学習コーナーに置いてあるコンピューターは、全国の考古学関係の博物館と埋蔵文化財センターの情報を教えてくれるぞ。

操作は簡単。モニターにでている指示にしたがって、コンピューターの前にあるマウスでモニターの上の指のマークをあわせボタンをおすだけ。

情報を追加している途中なので、まだ詳しい情報が入っていない館・センターもあるけれど。全国の１７０ほどの施設の情報がひきだせるぞ。

コンピューターをさわったことのない人も、こわがらないでさわってみよう。

□おねがいのコーナー□

□教えてください　□

埋蔵文化財センターでは、来年の考古学講座にむけて、現在ドングリの食べかたを研究しています。縄文時代の食物を復元しようという計画なのです。ところが、実際にドングリを食べるのには、アクをぬいてやったり、ダンゴにしてやったりと加工してやらないといけません。食べられるドングリの種類、また食用の技術をご存じの方がいらっしゃいましたら、埋蔵文化財センターにご一報ください。

どうぞ、考古学講座の充実のために御協力ください。

よろしくおねがいします。

連絡先　埋蔵文化財センター
TEL　０８６－４５４－０６００
学芸員　福本・中野まで

□　　□

次　号　予　告

□　　□

さ～て、次回の『ほるほる』は。

12月中に出す予定です。ページ数はたぶん今回よりは減るでしょう。

特集記事　考古学入門講座はどうでした？

連載記事　アンケートは楽しく読ませていただいたのだ　第３回

おしえて！おしえて！～しつもん　むかしの人はどんなものをたべてたの？

ほるほるくいず　第２回　／　倉敷市の歴史年表

などを予定しています　では、また次号でお会いしましょう

埋蔵文化財センター情報誌

ほるほる
Vol. 1

１９９３年12月20日
編集・発行
倉敷埋蔵文化財センター
－4号－
こたつぬくぬく号

なぜ掘るの？

遺跡と発掘調査

私たちがくらしている地面の下には、昔の人の生活の跡が埋まっているところがあります。そうしたところを「遺跡」といいます。

工事などで地面が掘りかえされたときに、土器のかけらや石器がみつかることがあります。村は、そういうところの地下に埋もれています。寺のあとには寺に関係ある地名が残っていたり、瓦がたくさんおちていたりします。海からはなれたところなのに、貝がらがたくさんおちていれば、そこはたぶん貝塚です。

遺跡でみつかる柱や炉（火をたく所）のあと、ゴミすて穴などを「遺構」といいます。遺構は地面の形をかえてつくったもので、もちはこびのできないものです。遺跡から出る昔の人が使った道具や食べ物のかすなどを「遺物」といいます。遺物には、土器や石器のほかに、木でできたもの、鉄や銅でできたものなどもあります。

遺跡を掘って、どんな遺構・遺物があったかを調べることを発掘調査といいます。地下の遺跡を調べれば、昔の人がその場所でどのようにくらしていたかがわかります。

遺跡のあるところに建物を建てたり道をとおしたりするために地面を掘りおこすと、大切な遺跡がこわれてしまいます。このようなときは、つくる場所をかえて遺跡をこわさないようにします。場所をかえることができない場合は、発掘調査を行い、わかったことを記録して残さないといけません。遺跡をこわさないこと、どうしてもこわれる遺跡を発掘調査することは「文化財保護法」という法律できめられたみんなの約束です。昔のくらしをしらべ、わかったことを記録しておくのは、未来のくらしを今よりももっと良くしていくため、歴史を考える材料を残しておくためです。文化財はみんなの財産です。未来のひとたちのためにもきちんと残していきましょう。

アンケートは

楽しく読ませていただいたもの　の第３回

≡結果報告のつづき≡

前回予告のとおり、第３回は面白かった回答・楽しい回答の特集です。

うれしかった回答も紹介します。

では、まいるぞ。

≡ボヨ～ン≡

全国博物館・埋蔵文化財センターガイドのコンピューターの音が良かった、おもしろかったという人があります。３人ほど。ボヨ～ン。でも、なおしたらよいと思われる点にも、同じく「ボヨ～ンの音」とこの人たちは書いています。ボヨン。ボヨ～ン。

別に期待していなかった点だけど、うけてくれてうれしいです。ボヨ～ン。

でも、アンケートにはこれだけでなく他の意見も書いてほしかったぞ。ボヨヨ～ン。

≡壺の中のにおい≡

しかし、みんなはこちらが思ってもみなかったことをするようですな。

まさか、土器パズルの壺の中のにおいをかいでみる人がいようとは・・・。

思ってもみなかった。（は、は、は）

で、土器パズルの中をにおってみてくさかった、という意見があったのには、大笑いしました。

私もにおってみました。

たしかにくさいわ。

でも、わざさわざあのにおいをかぐ人もそうそういないと思うので、別に消臭剤をいれたりはしませんでした。あしからず。（いるんだろうなぁ。この記事読んでにおいかぐ人も・・・。ま、いいけど）

≡わたしも掘りたい≡

将来、遺跡を発掘する人になりたい、という人がありました。

うれしいね。

猪木尚子さん、がんばって下さい。

考古学者や学芸員は体力と知力、そして根気が勝負です。

考古学で知りたいことがあったら、いつでも埋蔵文化財センターにいらっしゃい。

私たちでわかることは、いくらでも教えてあげよう。

私たち学芸員は応援しているぞ！

発掘する人になりたい人たち、がんばれ！

≡あってみたい≡

古代の人と聞いたらどんなことを想像しますか、という質問に西本えみさんはこう答えてくれました。

「あってみたいとおもう」

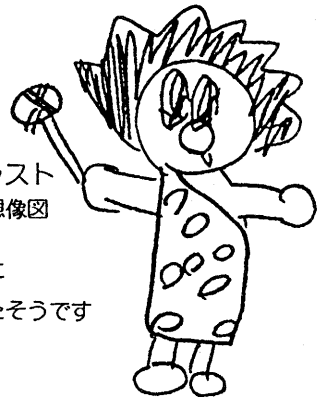
私もあってみたいです。あっていろいろ話をしたらおもしろいだろうと思います。

≡イラストつき≡

アンケートにイラストを描いてくれた人もありました。

ありがとう。

それを紹介します。



あべあきこさんのイラスト
古代の人の想像図

あきこさんは土器パズルと
アンケートがたのしかったそうです
どうも、ありがとう

岩城アキさんのイラスト

歴史好きのアキさん
埋蔵文化財センターに
また来てくださいね

≡ご協力ありがとうございました≡

「いえいえ　それほどでも・・・・・・」

と、アンケートの最後のお礼のあとに書きくわえてくれたのは、かんのうゆみさん。謙虚な方です。

いや、しかし実際みなさんがアンケートにいろいろな意見やギャグを書いてくれるのはうれしいことです。（こういうしゃれっけのあるギャグはいいけど、下品なギャグはおことわり）これからもアンケートは続けていきますので、さらにご協力をおねがいいたします。

≡その後のアンケート≡

次回は、9月に集計した後に書いていただいたアンケートの結果を報告します。開館半年以上たって埋蔵文化財センター入館者の反応がどう変わったか、あるいは変わっていないのか、さて楽しみだ。

みんな、しつもんようしでありがとう　いろいろ　しつもんしてくれて

おしえて！おしえて！

こんかいもたくさんおこたえします
これからもどんどんしつもんしてください

しつもん1　これは「なかよし二人組　Sさん　Mさん」からのしつもんです。

「考古学者という名前の意味を教えてください」

こたえ　考古学とは、古い時代のことを、残されたものから考える学問です。

ですから、考古学者はそれを研究する人のことです。

考古学者がどんなことをするのかは、『ほるほる』3号の表紙ページの記事をみてください。

しつもん2　これは高橋英理子さん、松浦美生さんたちのしつもんです。

「むかしの人たちは病気になったらどうしたのですか。

また、薬はどんなものがあったのですか。」

こたえ　これは、むつかしいしつもんです。

いまみたいな病院は、おおむかしにはありませんでした。

でも、縄文時代から古墳時代には、おいのりをしたり、病気なおしをしたりするシャーマンという人たちがいたようです。シャーマンは薬草をつかったり、おまじないをしたりして病気の人をなおしていたとおもわれます。

奈良時代ごろには、薬の知識が中国からつたわってきていたことがわかっています。漢方薬です。いまでいうシナモン（肉桂）などの薬草やスパイス動物の化石、鉱物などを薬にしていました。なかにはいまの医学でもききめがあることがわかっているようなものも多くあります。奈良の正倉院にはそうした薬がつたわっています。また、このころお坊さんが、まずしい人たちや病気の人たちの世話をする病院のような施設をつくったりしています。

いまほど医学がすすんでいなかったので、むかしはいまの人よりも早くなくなる人がおおかったようです。

それでも、むかしの人も友だちがくるしんだり、いなくなったりすると悲しいので、病気をなおすためにいろいろ工夫をしていたのです。

しつもん3　これは池田大樹くんからのしつもんです。池田君は何枚もしつもん用紙にしつもんを書いてくれています。このコーナーのおなじみです。

「鉄器（鉄の道具）がはじめて日本につたわったのはいつごろですか」

こたえ　鉄器は米つくりとおなじころ、弥生時代のはじめごろに日本につたわりま

した。これは、いまから2300年ほどむかしのことです。

このころ鉄からは、鉄斧（鉄のオノ）やヤリガンナ（カンナの一種）、刀子（ナイフ）などがつくられました。

しつもん4　これは寺山聡昌くん、山下真奈さんほかのしつもんです。

「むかしの人はどんなものを食べていたのですか」

こたえ　ひとくちにむかしといっても、ながい時間の間に食べるものはすこしづつ変わっています。これは、人のくらしているまわりにいた動物や、はえていた植物が、気候の変化などでうつりかわっていくからです。また、遠くの国から新しい作物がつたえられて、食べものがふえることもあります。

それでは、縄文時代の食べものと弥生時代のおもな食べものはどんなだったかを見てみましょう

	縄文時代	弥生時代
植物	ドングリ	米（あたらしくつたわってきた）
	トチ	アズキ・ダイズ・ムギ
	クルミ	ドングリ・トチ・クルミ
動物	イノシシ	イノシシ
	シカ	（なぜか シカ はほとんどたべていない）
	サケ・マスなどの魚	タイ・スズキなどの魚
	ハマグリなどの貝	ハマグリなどの貝
		タコ（タコツボ でとっていた）

このようなものを中心にし、そのほかにもいろいろなものをたべていたようです。魚などはいまよりもよく育ったおおきなものを食べていたようですし、なによりも自分でとったとれたてをたべていたわけですから、なかなかグルメな生活だったのではないでしょうか。

しつもん5　これは信原光里くんのしつもんです。

「どうして文明がうまれたのですか」

こたえ　さて、どうしてなんだろう。僕も知りたいです。

なぜ人間は、ただのよわよわしい動物のくせに文明を、こころをもってしまったんだろう。ふしぎだ。

これには、昔の人や現代の学者によるいろいろな考えがあるんだけど、どれもいまひとつのような気がします。だからこれには、いまのところ正しいこたえはないとしておきましょう。みんなもこたえを考えてみてください。

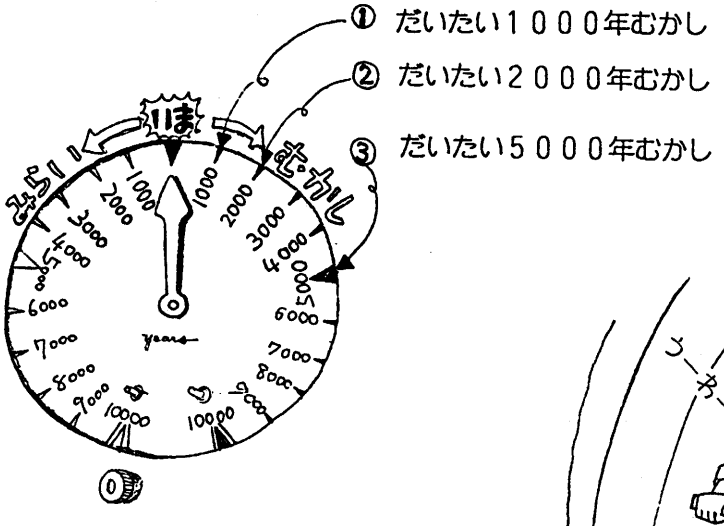
ほるほるくいず

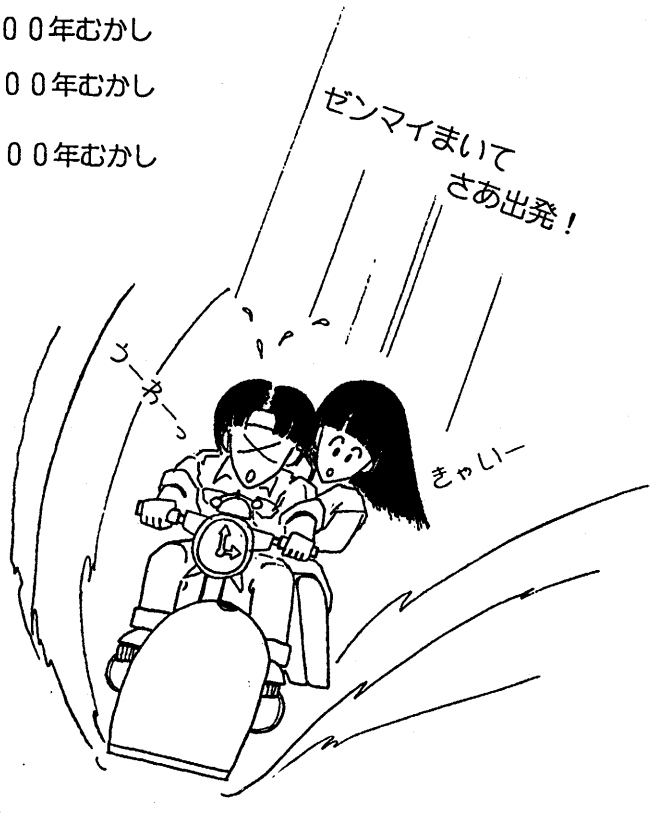
第２回

前回のこたえ　３番の弥生時代です

なんとか弥生時代にいけないものか
ほるほる君とこのみちゃんは
ねむねむ博士にそうだんしに行った
博士は時間を行き来する乗物
　タイム・バイク（Ｔ．Ｂ．）をかしてくれた
（でも、これって本当に乗っても
　だいじょうぶなんだろうか？）

このＴ．Ｂ．はこれから行く時代を
めもりであわせてやらないといけない
さて弥生時代は





ほるほる君は３番にあわせた
これは正しいのかな？
こたえは次号！

ほるほる君とむかし探検

みんなの家は海かな陸かな

寒くなってきたけど、みんな元気かな？家の中でこたつに入ってファミコンばかりしてちゃだめだぞ。

ということで、今日はむかしの倉敷を歩いてみよう。

まず、下にある白地図はみんなが住んでいる現在の倉敷市の形。黒くぬってあるのが海や川。白が陸地。これは、わかるよね。

では、次のページからがむかし探検。時代ごとにかわっていった地形（海や川や陸のかたち）のようすをみてみよう。いろいろ言い伝えがあるけど、ほるほる君はこう考えてみたんだ

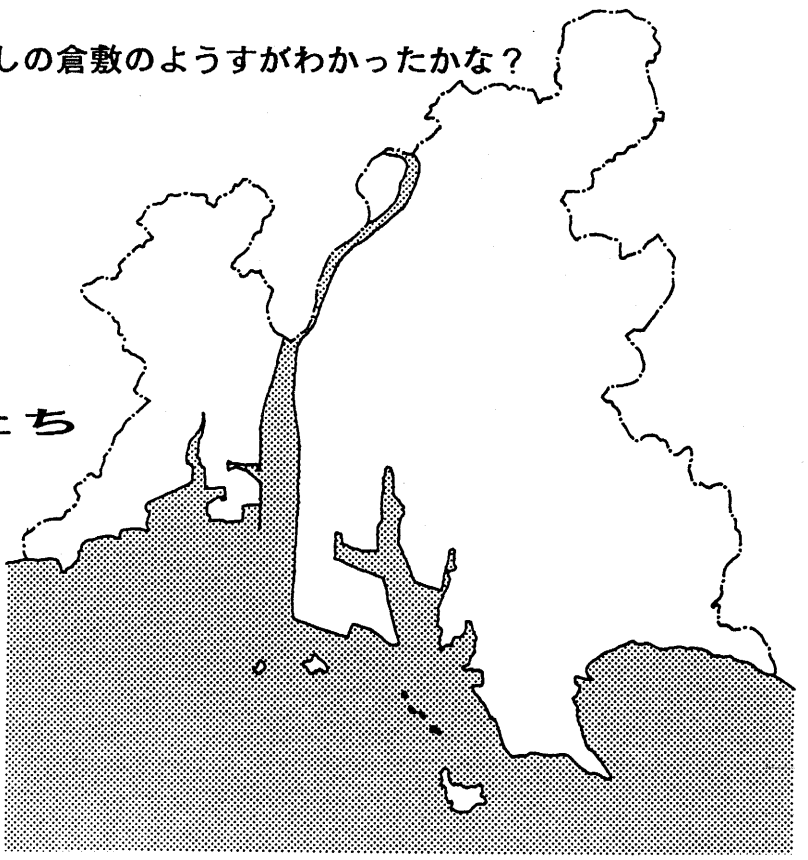
ちょっと地図が小さいけどみんなの家がある所がわかるかな？わかった？みんなの家は、むかし海だったところ？それとも陸だったところ？

でも、海の部分が多いなあ！

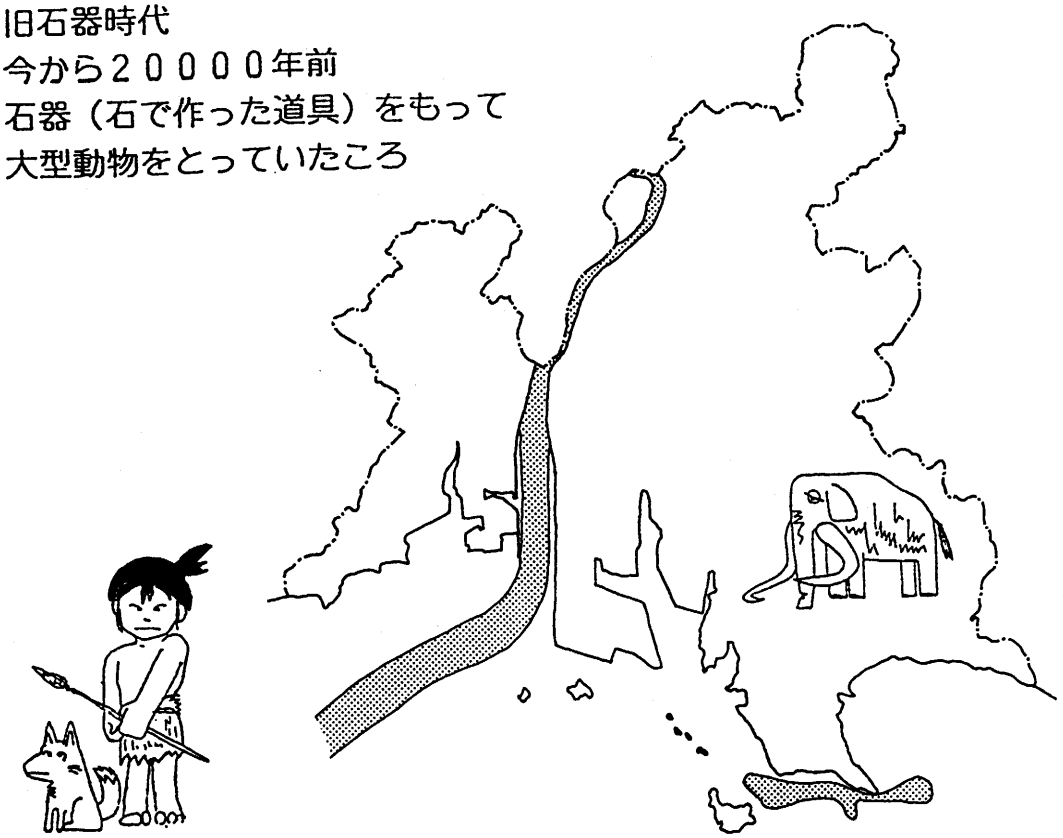
そうなんだ。倉敷市のほとんどが江戸時代（いまから３００年ぐらい前）まで海だったんだ。その海をうめたてて陸にしたんだ。海をうめたてたところは、土地の名前に新田という字でのこっているよ。

これで少しはむかしの倉敷のようすがわかったかな？

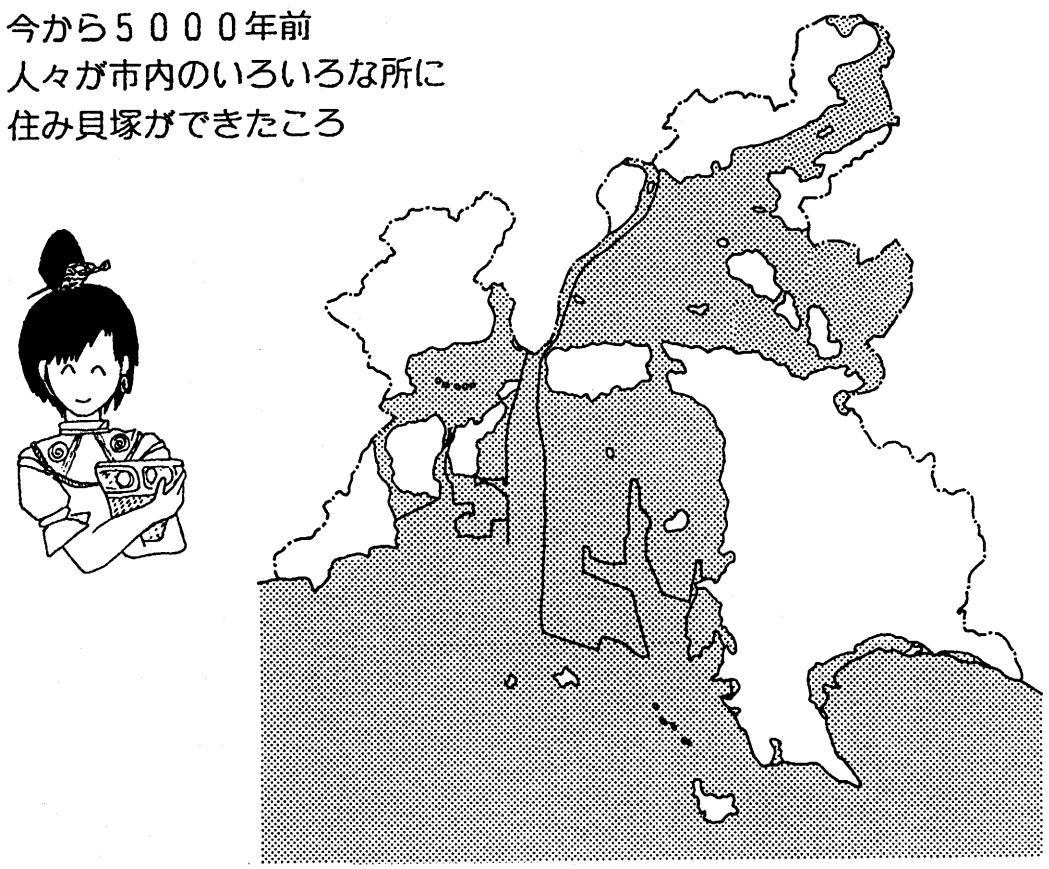
倉敷市の
いまのかたち



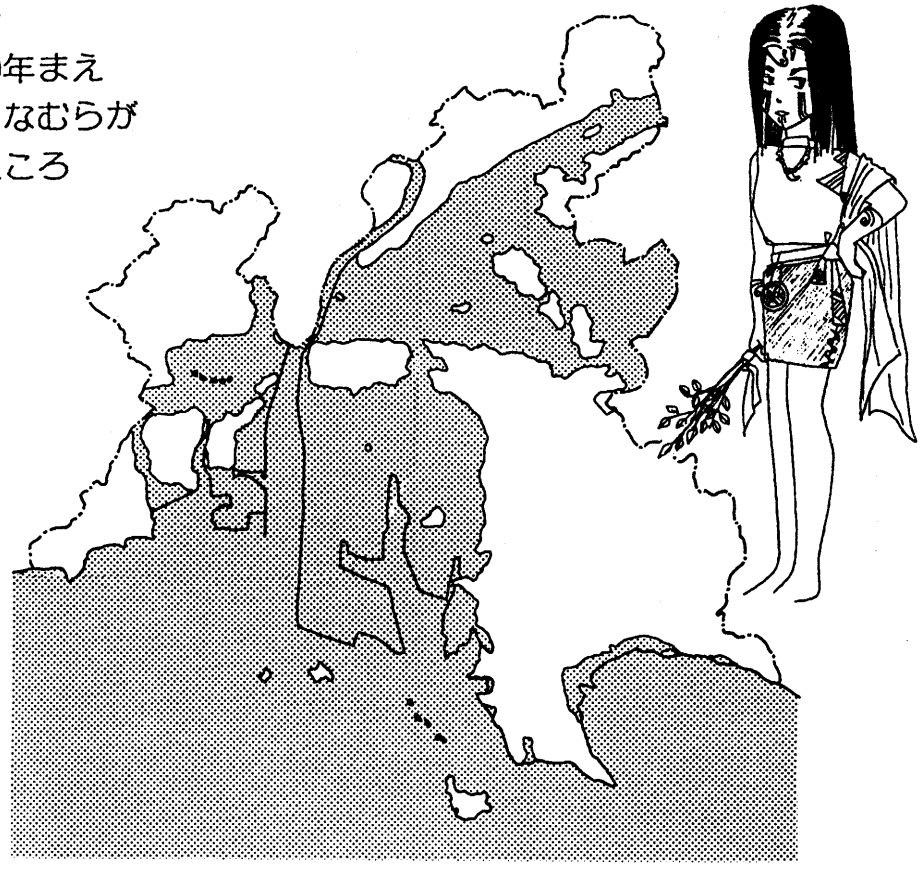
旧石器時代
今から２００００年前
石器（石で作った道具）をもって
大型動物をとっていたころ



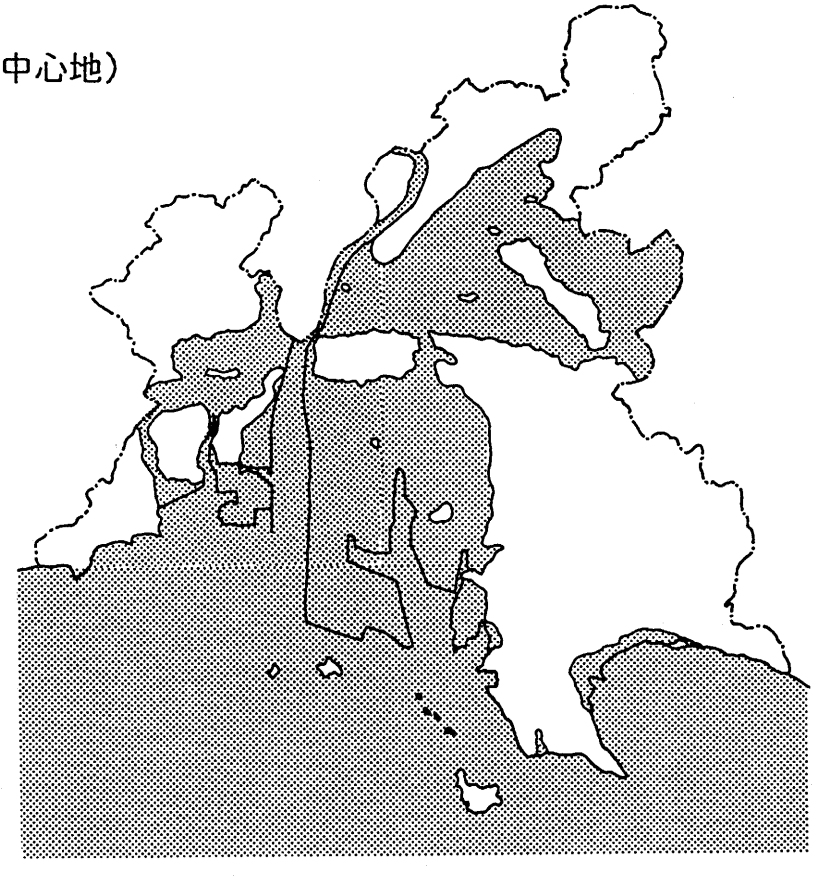
縄文時代
今から５０００年前
人々が市内のいろいろな所に
住み貝塚ができたころ



弥生時代から古墳時代
今から1500年から2000年まえ
米作りがはじまり大きなむらが
でき古墳がつくられたころ



古代から中世
今から１０００年前
大きなみやこ（日本の中心地）
ができたころ



これはなにかな　第4回

木器保存処理コーナーの機械

木器保存処理コーナーには、青い箱のような機械がありますね。

あれは、何の機械なのでしょう？

あの中は水槽みたいになっていて、水が入れられるようになっています。

そこに木を入れてやります。水を入れて、ポリエチレン・グリコールという薬をまぜてやります。機械はその液体をあたためて、木の中に薬がしみこみやすくします。

そして、1年ほど時間がたつと、木には薬がしみこんで固まって、くさったり、かわいてボロボロになったりしなくなるのです。

あの青い機械は、このようにして、遺跡から出てきた木でできた道具を保存するために使う機械なのです。

おわび　です

前号で予告した、『倉敷市年表』と『考古学入門講座の報告記事』が、今号にまにあいませんでした。すみません。

年表はただいま用意の最中です。思ったより手まどっているので、今すこしお待ちください。

入門講座の報告は、参加者のかたにお願いしたアンケートの集計ができしだい、のせる予定です。次号には、まにあわせます。

スケジュールの読みがあまかった編集者は、反省しております。

どうか、ご容赦を。

こりずに次号予告

じごうにはまにあわせます

特集記事　考古学入門講座はどうでした？

おしえて！おしえて！

しつもん～たてあな住居はどのようにたてたの？

ほるほるくいず　第3回　ほるほる君は時間の流れのなかで

道に迷ってしまうぞ、さあ大変！

ほるほる君の持ち物しらべ～考古学の道具にはこんなのがある　など

倉敷埋蔵文化財センター年報 1
― 1993 年度 ―

平成 6 年12月31日　印刷発行

編集・発行　倉敷埋蔵文化財センター
〒712 岡山県倉敷市福田町古新田940番地
☎086－454－0600

印　　刷　有限会社 協 和 印 刷 所